

第二章

北樺太利権關係諸問題

會社ノ組
織、資本
金及純益

161

第二章 北樺太利權關係諸問題

第一節 北樺太石油利權關係諸問題

第一款 北樺太石油會社事業現況

北樺太石油會社ハ「ソ」基本條約附屬議定書乙第一號ニ基ク石油利權契約及北樺太利權ニ關スル大正十五年ノ勅令第九號ニ基キ北辰會ノ事業ヲ繼承シ大正十五年六月設立セラレタルモノニシテ同利權契約ニ基キ北樺太ニ於ケル八ヶ所ノ油田約四六、一七七平方露里（一千五百八十九萬七千余坪）ノ五割ニ對スル採掘權（四十五ヶ年ノ期間）及同地方ニ於ケル十一地域一千平方露里（三億四千四十二萬五千余坪）ノ試掘權（大正十四年十二月十四日ヨリ起算シ十一ヶ年ノ期限）ヲ有シ專ラ石油ノ採取及賣買ヲ營業トシ居ル處會社設立當初ノ資本金一千萬圓ハ事業ノ擴張ニ伴ヒ昭和六年七月二十萬圓ニ増額セラレ増資新株ニ付同年八月及昭和八年六月夫々二百五十萬圓宛ノ拂込アリタル結果現在拂込資本金ハ一千

試掘

従來ノ試掘劃定鑛區ハ「エハビ」第一區同第二區「ボロマイ」第一區第二區及第三區並ニ「カタンクリ」第一區及第三區ノ七鑛

地質調査

五百萬圓トナリ居レリ一方會社ノ營業成績ハ昭和五年度迄ハ逐年向上ノ一途ヲ辿リ八分ノ株主配當ヲ持續シタルカ昭和六年度ヨリ稍々低下シ昭和八年三月ヲ以テ締切リタル昭和七年度決算ニ於テハ七十九萬六千二百圓余ノ純益金ヲ計上シ六分（昭和七年度ハ七分）ノ株主配當ヲ行ヒタリ

昭和八年ハ（一）「エハビ」第四區（二）「エハビ」第五區（三）南「バタール」地方ニ五班ノ地質調査除班派遣セラレタル外新谷技師ノ率ユル臨時地質調査班ハ南方「ゴンギ」地方ヨリ北方ニ向ヒ「チエメルニダーギ」南「バタール」地方ヨリ「クキヅキラニー」及「エハビ」方面ヲ調査セリ

此外測量ノ目的ヲ以テ「エハビ」第四區同第五區及「クキヅキラニー」方面ニ三班ノ地形班派遣セラレタリ

採油

區ナリシカ昭和八年度ニハ「エハビ」第三區及「カタングリー」第五區ノ劃定ヲ了シ目下北「バターシン」ノ畫定中ナリ而シテ昭和八年度豫算ニ於テ約百七十六萬圓（一千平方露里ニ對シ）ノ試掘費ヲ計上シ前年度ヨリ繼續中ノ「エハビ」第一區第二區及「ボロマイ」第一區第三區「カタングリー」第一區（本區ニ於テハ二本ノ掘鑿ヲ行ヘリ）第三區ニ於テ試掘ヲ實施シ昭和八年末迄ニハ「エハビ」第三區及「カタングリー」第五區ノ試掘ニ着手スヘキ豫定ナル處前記地方試掘ノ結果ヲ見ルニ「エハビ」方面ハ現在尙未定「ボロマイ」方面ハ成績思ハシカラサル爲目下休止中「カタングリー」第一區ノ第一號井ハ技術上ノ理由ニテ進行不可能ニ陥リ第二號井ハ目下進行中ナルモ其ノ成績良好ノ如ク「カタングリー」第三區ハ現在掘鑿中ニテ其ノ成績未定ナリ

現在石油會社ニ於テ採油セル鑛場ハ「オハ」及北「オハ」ノ二ヶ所（「カタングリー」ハ昭和八年採油休止中）ノミニテ同鑛區ニ

原油内地
輸送量
五 會社ハ自社ノ採油及「ソ」側石油「トラスト」(サハリンネフチ)

昭和八年度 (豫想)	二二三、二〇〇、〇
昭和七年度	一八六、六三三、四
昭和六年度	一八六、三九二、四
昭和五年度	一九二、一四五、〇
昭和四年度	一八六、六四一、〇
昭和三年度	一二一、三五六、〇
昭和二年度	七七、一三六、二
大正十五年度	三四、三八三、五

ハ昭和八年ニ入り新設セラレタル十五基ノ坑井構ヲ加ヘ百三十五基ノ坑井構(此ノ外休止中ノ構八基アリ)ヲ有シ平均日産量約五百五十噸ニ達シ前年度ニ比シ其産油量稍増加セル趣ニシテ昭和八年四月ヨリ十月末迄ノ實際採油量ハ一一六、六六五噸ナリ
尙参考ノ爲最近數年間ノ年別採油量ヲ擧クレハ左ノ如シ

第五編 陸軍省ノ石油ノ採掘
第六編 陸軍省ノ石油ノ輸送
第七編 陸軍省ノ石油ノ消費
第八編 陸軍省ノ石油ノ貯蔵
第九編 陸軍省ノ石油ノ管理
第十編 陸軍省ノ石油ノ其他ノ事項

物資輸入

六 會社ハ利權契約第二十一條ニ基キ其ノ勞働者及從業員ニ對スル食料品及日用品供給ノ義務アルニ付年々巨額ノ物資ヲ内地ヨリ輸入シ來レル處之等物資（會社ニ於テハ右供給品ヲ酒保品ト稱シ居レ

ヨリノ購入原油ヲモ合シ昭和八年度ニ於テ原油三十一萬七千八百七噸ヲ内地ニ輸出スル豫定ナリシ處十月十五日ノ終航迄ニ實際輸送セラレタルハ三十一萬三千六百二十一噸ナリ

因ニ創業年度以降ノ原油内地輸送量ハ左ノ如シ

大正十五年度	二〇、六〇一、五
昭和二年度	四四、九六七、〇
昭和三年度	八九、五二一、〇
昭和四年度	一三一、五二六、〇
昭和五年度	一九八、八二三、〇
昭和六年度	二七二、二八四、〇
昭和七年度	三一五、四四九、〇

基以對其... (油) 牧村... 昭和八年度... 輸送... 三十五

昭和八年八月一日現在ニ於ケル會社勤務員ハ三一七、労働者ハ二、七四六合計三、〇六三ニシテ之カ職籍別ハ邦人一、五六九露人一、三八三鮮人一〇九其他二ナリ而シテ季節労働者ノ引揚ケタル十一月一日現在ノ勤務員及労働者數ハ二、一五六ニシテ内邦人一、一五露人九三二、鮮人一〇七、其他二ナリ

リ)並ニ事業用ノ一切ノ機械器具各種材料等其他事務所用品等全部(之等ヲ一括シテ用度品ト稱ス)ノ昭和八年度及昭和七年度ノ輸入額次ノ如シ

酒保品	昭和八年度	一、八〇二、八五二圓
	昭和七年度	二、〇六一、六六三圓
用度品	昭和八年度	一、八九八、三三六圓
	昭和七年度	一、九六九、一六〇圓

尙昭和八年度ニ於テ右労働者及従業員用物資ノ賣價ニ關シ後述ノ通紛議發生ヲ見タリ

勤務員及労働者數

昭和八年八月一日現在ニ於ケル會社勤務員ハ三一七、労働者ハ二、七四六合計三、〇六三ニシテ之カ職籍別ハ邦人一、五六九露人一、三八三鮮人一〇九其他二ナリ而シテ季節労働者ノ引揚ケタル十一月一日現在ノ勤務員及労働者數ハ二、一五六ニシテ内邦人一、一五露人九三二、鮮人一〇七、其他二ナリ

166 來航艦船數
 昭和八年航海期中ニ來航セル原油積取艦船及貨客運搬船數左ノ如

建設作業

昭和八年「オハ」鑛場及北「オハ」分鑛場ニ於テ建設セラレ及目

下建設セラレツツアル重要施設物ハ會社新事務所外二十四棟ニシ

テ此建設費見積額ハ二十一萬五千圓余ナリ

艦船別 隻數 總噸數(噸) 登簿噸數(噸)

軍艦(特務艦) 一二 不明 不明

石油積取船 二一 一七七、二一四 一〇六、三九四

貨客社備船 一三 二七、九八七 一八、一八九

汽船合計 三四 二〇五、二〇一 一二四、八八三

艦船總計 四六

船(支給七一割ノ大船隻品ヲ稱ス)ノ船底ハ半價買附林少率製ノ
 ヲ並ニ畢業用ノ一四ノ鐵鑄器具及鐵林機等其船體等品等全

利權條件
改善ヲ必
要トスル
理由

第二款北樺太石油利權條件改善問題（極秘）

北樺太石油會社ハ利權契約實施ノ經驗ニ依リ同契約ニ幾多不便不利ノ規定アルヲ發見セルノミナラズ「ソ」側ノ同社企業ニ對スル壓迫的態度ノ爲經營上支障ヲ來スコト尠カラサルヲ以テ「ソ」側ノ不當ナル壓迫ヲ排除スルト共ニ利權契約ノ或種規定乃至「ソ」聯邦法令ノ實際的適用ニ付緩和若ハ除外例ヲ求メ又更ニ進ンテハ同契約ノ改正ヲ計ルノ必要ヲ感スルニ至レリ

依テ同社ハ右ニ關シ昭和八年ニ入り在本邦「ソ」聯邦前任「トロヤノフスキー」大使及新任「ユレーネフ」大使ニ種々陳情スル所アリタルカ其後愈々「ソ」聯邦政府當局ト本格的交渉ヲ開始スルコトニ決シ右ニ關シ十一月二十九日附ヲ以テ「ソ」聯邦人民委員會議宛請願書ヲ提出セリ

交渉案件

168

右交渉案件左ノ如シ
（一）一千平方露里ノ試掘地域ノ徹底的試掘ヲ可能ナラシムル爲一九三

六年十二月十四日ヲ以テ滿了スル試掘期間ヲ更ニ五ヶ年間延長スルコト

(二) 企業労働者ノ生産能率ノ向上及統制上尠クトモ右期間中ハ利權契約第三十一條ノ労働者使用比率ヲ適用セス外國人(日本人)ノミヲ以テスルコトヲ得ルノ臨時特典ヲ認ムルコト

(三) 試掘期間中試掘鑛區ノ設定ヲ自由ナラシムルコト即チ特別ノ場所ニ於テハ利權契約第十三條所定ノ形(矩形ニシテ其ノ邊ハ三對二ノ比ヲ以テ經線及緯線ニ沿ツテ配置セラル)及大サ(九六〇「デシヤチン」)ニ關係ナク會社ノ希望スル形ト大サノ試掘鑛區ヲ設定シ得ルノ特別規定ヲ認ムルコト

(四) 法律規定ニシテ會社ノ物質的負擔ヲ増大スルモノ及企業實施上困難ヲ増加スル如キモノノ適用ヲ特ニ緩和又ハ全然免除スルコト

(五) 企業經營上必要トスル露貨ハ特定率ヲ以テ圓貨ト換算セラルヘキコト(但シ本件ハ北鐵賣買交渉ノ成立ヲ見タル上提案スルコトト

ナリ右十一月二十九日ノ請願書中ニハ之ヲ加ヘ居ラス
尙前記(二)乃至(五)ニ對シテハ之カ代償トシテ會社ハ相當額ヲ「ソ」
側ニ納付スル用意アルコト。

第三款 團體契約改訂交渉

石油利権企業ニ於ケル労働條件ヲ律スル團體契約ハ大正十五年九月北樺太石油會社ト「ソ」側當該労働組合トノ間ニ締結セラレタルヲ初回トシ爾來毎年改訂セラレ居ル次第ナルカ組合側ハ右改訂毎ニ過大ナル要求ヲ提起スルヲ例トシ昭和八年度同契約改訂交渉（昭和八年二月二十八日莫斯科ニ於テ開始セラル）ニ際シテモ賃銀引上、日本人労働者賃銀ノ現地露貨拂等會社側ニ於テ到底容認シ得サル提案ヲ爲シ會社側ヲシテ之ニ對シ強硬ナル對案ヲ提出スルノ餘儀ナキニ至ラシメタル爲一時交渉決裂ニ瀕シタルカ結局双方互讓シ各其ノ要求ヲ撤回向フ一年間（自一九三三年三月一日至一九三四年三月一日）現契約ヲ其儘延長スルコトニ取極メ昭和八年四月二十二日彼我代表者間ニ右調印ヲ了セリ

第四款 北樺太産「ソ」側原油購入問題

北樺太石油會社ニ於テハ北樺太産原油ニ對スル第三者ノ介入ヲ防止スル意味ヲモ加味シ昭和四年以降年々北樺太「ソ」聯邦石油「トラスト」「サハリンネフチ」ヨリ原油ヲ購入シ内地輸送ヲ實行シ來リタル次第ナルカ昭和七年度迄ノ年別購入量左ノ如シ

昭和四年	二七、七一三。三
昭和五年	三七、二九九。九
昭和六年	一一二、五四三。四
昭和七年	一三四、九八二。六

更ニ昭和八年度「ソ」側原油購入契約ニ付テハ東京ニ於テ會社側及駐日「ソ」聯邦通商代表部間ニ五月二日左記要領ノ契約締結セラレタリ

- (一) 契約期限 一ケ年
- (二) 數量 原油十二萬五千佛噸

外辦大臣會館ニ宛テハ外辦大臣預備ニ様スル漢三卷ノ入人ニ認出
 第四條 外辦大臣「一」關東前編入國證

(三) 原油受渡期間

昭和八年六月一日ヨリ十月十日迄

(四) 前渡金

會社ヨリ通商代表部ニ對シ金二百五十萬圓ノ
 前渡金ヲ支拂ヒ通商代表部ハ右ニ對シ、年八
 分ノ利子ヲ支拂フ

(五) 保證

「ソ」聯邦國立銀行ハ通商代表部ノ受取リタ
 ル前渡金及其利子ニ對スル支拂義務履行ヲ保
 證ス

(六) 免稅

會社ハ「ソ」聯邦ノ國稅及有ユル公課ヲ免除
 セラレ關稅其他一切ノ手数料ヲ支拂ハスシテ
 購入原油ヲ搬出スル權利ヲ有ス

(七) 優先權

會社ハ他ニ優先シテ「トラスト」ノ原油ヲ買
 取ル權利ヲ有ス

(三) 恩賜受親眼聞 留味八抄六頁一日三〇十月十日
 (四) 會振三〇 蘇蘭丹表贈ニ機心金二百五十萬圓

「商行爲
 ヲ行フ目
 的ヲ以テ
 「ソ」聯
 邦港灣ニ
 入港スル
 外國運送
 船ニ關ス
 ル特別規
 則ニ適用

第五款 原油積取特務艦關係諸問題

第一項 特務艦ノ「オハ」入港及乗組員上陸問題

「ソ」聯邦側カ原油積取ノ爲北樺太「オハ」へ渡航スル帝國特務艦ニ對シ其ノ軍艦トシテノ特權ヲ制限セントスル態度ハ逐年露骨トナリ遂ニ昭和七年度ニ入ルヤ「ソ」聯邦政府ハ此種特務艦ニ對シ商船同様ノ取扱ヲ爲サントシ同年五月二十九日在「ソ」聯邦帝國大使館ニ對シ「商行爲（積取り）ヲ行フ目的ヲ以テ「ソ」聯邦港灣ニ入港スル外國運送艦船ニ關スル特別規則」ヲ送付越スト共ニ右特別規則ニ依リ此種帝國特務艦ハ「オハ」入港及碇泊ニ付「ソ」聯邦政府ノ同意ヲ取付クルニ及ハス在一「サハレン」日本石油利權監理部ヨリ同地重工業人民委員部全權ニ對シ各運送艦船ノ入港ヲ適宜通報スレハ足ル旨ヲ通告シ來リタルヲ以テ我方ハ此種特務艦ニ付軍艦ノ特權ヲ主張シ前記特別規則ノ適用ニ反對シタル結果「ソ」聯邦政府ハ同年七月二十二日ニ至リ帝國海軍ニ於テ「ソ」聯邦ノ港灣ニ來航スル外

第一節 海軍艦ノ入港ニ關スル問題
第五條 海軍艦ノ入港ニ關スル問題

「外國艦
船軍用運
送船ヲ含
ム」ノ北
樺太港津
碇泊ニ關
スル臨時
特別規則
ノ制定

右規則適
用ニ關ス

國軍艦ノ爲制定セラレタル許可制度（一九三一年發布「ソ」聯邦領海ニ來タレル外國艦船ニ關スル暫定規定）ヲ選フニ於テハ「ソ」聯邦側ハ帝國海軍ノ輸送船ニ對シテ右制度ヲ維持スヘキ旨回答シ來リタリ
然ルニ「ソ」聯邦側ハ前記ノ通り帝國特務艦ノ軍艦タル資格ヲ認め居リナカラモ尙モ特務艦及乗員ノ行動ヲ束縛セントスルモノノ如ク同年九月二十九日附ヲ以テ「外國艦船（軍用運送船ヲ含ム）」ノ北樺太港津碇泊ニ關スル臨時特務規則ニ「制定シタル趣ヲ以テ同年十月二十二日附ヲ以テ在「ハバロフスク」總領事館へ又同年十二月十一日附ヲ以テ在亞港總領事館へ前記特別規則ヲ送付越シ又其後昭和八年四月十五日帝國政府ヨリ例年ノ通り「ソ」聯邦政府ニ對シ同年度ニ於ケル帝國特務艦ノ「オハ」入港ニ付承認方ヲ求メタル際右入港ニ異議ナキモ前記特別規則遵守ノ要アル旨ヲ注意シ來リタリ
而シテ前記外國艦船ノ北樺太東海岸碇泊臨時特別規則中ニハ從來間

ル帝國政
府ノ申入
レ(五月十
七日)

題トナリタル乗員名簿ノ提出、上陸員ノ制限、陸上行動區域ノ限定
ノミナラス平服着用者ノ姓名及等級通告、要塞地外ニ對スル撮影、
見取圖ノ作成及「スケッチ」等禁止並軍艦來訪者ニ對スル手續(艦
長ノ同意ヲ得テ國境警備長官ノ發給スル通行券ニ依リ乗船許可)ノ
如キ國際慣例ヲ無視セル規定アル處日本特務艦ハ艦船中普通ノ軍艦
ト同様ノ地位ヲ有スルモノナルヲ以テ商船ニモ等シキ此種制限ヲ附
セラルルコトハ其ノ例ナク從テ帝國海軍トシテハ「ソ」側ニ對シ飽
迄國際慣例上他ノ軍艦ト同様ノ取扱ヲ要求スルノ意嚮ナリシヲ以テ
在「ソ」大田大使ハ政府ノ訓令ニ基キ五月十七日右ノ旨「ソ」聯邦
政府ニ申入ルルト共ニ「ソ」側ニ於テ我特務艦ニ對シ國際慣例上軍
艦トシテノ取扱ヲ爲シ地方官憲ニ於テ事端ヲ發生セシメサル様措置
方要求シタリ

右我方ノ申入ニ對シ「ソ」聯邦外務人民委員部ハ七月二十二日左ノ
通回答越セリ

帝國政府
ノ申入ニ對
スル「ソ」聯
邦側回答(

七月廿二日

「ソ」聯邦當該機關カ一九三二年「外國軍艦（軍用輸送船ヲ含ム）ノ北樺太東海岸港津碇泊ニ關スル臨時特別規則」ヲ發布シタルハ日本大使館ノ申出ニ基キ日本特務艦ニ對シ「商行爲（積取）ノ爲「ソ」聯邦港灣ニ來航スル外國軍艦ニ對スル特別規則」ヲ適用セサルコトトシタルニ基クモノニシテ右特務艦ノ「オハ」來航ニ關聯シテ生シタル困難除去ヲ目的トセルモノニ外ナラス

外務部ハ一九三二年ノ規則ハ國際法ノ一般的規則ニ違反スルモノト看做スコトヲ得サルモノニシテ且現ニ生セシ誤解ヲ除去センカ爲ニハ該規則ノ個々ノ條項ノ眞ノ意義ニ付幾分ノ註釋ヲ加フレハ足ルヘシ即チ

- 一 特務艦乗員ノ名簿通知ニ關スル前記臨時規則第三條第二項ハ地方官憲カ特務艦長ニ對シ乗組員以外ノ者ニシテ上陸セントスル者ノ名簿通知ヲ求ムルモノナリトノ意味ニ解スヘキモノナリ
- 二 上陸員三十名ト規定セルハ現在港ニ碇泊中ノ各特務艦カ地方官

憲ノ許可無クシテ上陸セシメ得ル最大限度ノ數ヲ考慮ニ入レ居ルモノニシテ必要ノ場合ニ於テハ「ソ」聯國境警備隊首席長官ノ特別ノ許可ニ基ツキ一時ニ右以上ノ數ノ乗組員ヲ上陸セシムルコトヲ得ヘシ

三 臨時特別規則第六條第二項ハ特務艦乗組員ハ上陸ニ際シ「ソ」聯邦領域ニ於ケル外國海軍軍人ノ正服及武器着帶ニ關スル一般的規則ヲ遵守セサルヘカラストノ意味ニ解スヘキモノナリ

四 臨時特別規則第七條ニ定メラレタル上陸員ノ移動ニ關スル制限ハ從來ノ國際慣例ニ全ク合致スルモノナリト思考ス此ノ種規定ハ單ニ北樺太東海岸諸港ニ於ケルノミナラス陸海軍人民委員部カ種々ノ場合ニ發布シタル他ノ諸規則中ニモ含マレ居ルモノニシテ例ヘハ「バツーム」及「オデツサ」港ニ關シテハ一九三二年九月一日附陸海軍人民委員部水路課命令（第五七五號及第五七六號）ヲ以テ一般ニ之ヲ公告シタルカ右ハ極メテ當然ニシテ日

「ソ」聯
邦回答ニ
對スル帝
國政府ノ
措置

本ヲ含ム何レノ國家ヨリモ何等ノ抗議ヲ受ケサリシモノナリ
以上説明シタル所ニ依リ外務部ハ日本大使館並ニ日本政府ノ當該
機關ハ右諒解ノ上ハ本問題カ雙方ニ取り好マシキ意味ニ於テ完
全ニ調整セラレタルモノト看做サルヘキモノナルコトヲ認ムル
ヲ拒マサルヘシト思考スル旨茲ニ表明ス
右「ソ」側ノ回答ハ我方要求ノ全部ニ對シ答ヘ居ラサルノミナラス
第一項（名簿通知）ヲ除キ概ネ我方ノ満足シ得サル所ナルヲ以テ更
ニ左ノ趣旨ヲ「ソ」聯邦側ニ申入ルヘキ旨八月十日在「ソ」聯邦大
使ニ訓令セリ

一 名簿通知ニ關スル第三條二項ニシテ「ソ」政府解釋通トセハ何
等異議ナキモ同項ハ文理上斯ク解スルコト困難ナルニ付本項ヲ
右趣旨ニ合致スル様訂正ノ要アリ但帝國海軍トシテハ右訂正ノ
有無ニ拘ラス「ソ」側申入ノ趣旨ニ依リ乘組員ノ名簿ハ從來通
通知セス

ニ上陸員數ノ制限ハ未タ一般ニ國際慣例トナリ居ラサルヲ以テ假令特別許可ニ依リ一時ニ三十名以上ノ乗員ヲ上陸セシメ得ルトスルモ主義上之カ制限ヲ容認シ得ス

本邦ニ於テハ「ソ」國ハ勿論列國艦船ノ本邦寄港ニ際シ其ノ上陸員數ヲ制限スルコトナク且「オハ」ニ於テハ碇泊地ノ狀況、碇泊日數ノ關係上一時ニ乗員ノ半數以上ヲ上陸セシムルコト屢々有之ヘキニ付本制限ノ撤回ヲ特ニ希望ス

三第六條第二項カ「ソ」聯邦領域ニ於ケル外國陸海軍々人ノ制服及武器ノ着帶ニ關スル一般規則（一九三一年六月三十日認可）ヲ遵守スヘキ意味ナラハ何等異存ナキモ同規則ニハ平服ヲ着ケ上陸スル者ノ姓名及等級ヲ通告スヘキ規定ナキニ拘ラス本特別規則ニ於テハ之等ヲ通告スルコトトナリ居リ兩者相矛盾スルヲ以テ後者ヲ前者ノ趣旨ニ合致スル如ク訂正ノ要アリ

四第七條上陸員ノ陸上行動區域ノ限定ハ國際慣例ニ合致セサルハ

九月十一日附我方申入ニ對スルソ聯邦側回答(十一月三日)

議論ノ餘地ナキ所ナルノミナラス現ニ「ソ」側ニ於テモ「オハ」油田見學ヲ許可シ居ル狀況ナルヲ以テ本條ハ削除ノ要アリ

第八條要塞地帯以外ノ撮影、見取圖ノ作成「スケツチ」等ノ禁止及第十一條軍艦來訪者ニ對スル手續ノ件ニ付テハ「ソ」側ハ何等言及シ居ラサルニ付本件モ前諸號ト同時ニ重ネテ交渉スルコト

依テ在「ソ」聯邦大田大使ハ九月十一日附公文ヲ以テ右訓令ノ趣旨ヲ「ソ」聯邦外務人民委員部ニ申入レタル處同人民委員部ヨリ十一月三日附ヲ以テ左ノ通回答越セリ

(一)北樺太東海岸諸港碇泊臨時特別規則第三條第二項(乗組員ノ名簿提出)ハ艦長ヨリ通知スヘキハ單ニ特務艦乗組員以外ノ者ニシテ上陸セントスル者ノ名簿ノミナルコトヲ規定セルモノニシテ右ハ全ク明瞭ナリ從テ本問題ハ解決セラレタルモノト看做スコトヲ得ヘシ

(二)臨時特別規則第六條第一項ノ規定(上陸員ノ制限)中ニハ何等

國際慣例ト矛盾スル點ナシ日本官憲ハ右ハ一九三一年ノ外國軍艦ニ對スル一般臨時規則トノ比較ニ比シ制限的ナルカ如ク誤解セラレ居ルモ實ハ同規定ハ現地官憲ノ許可ヲ得スシテ各艦ヨリ一時ニ一定數ノ兵員ヲ上陸セシムルコトヲ許シ反テ特典的條件ナリ右以上ノ數ノ乗組員ノ上陸ハ必要ニ際シ許可ヲ得タル後通常ノ方法ニ依リ行ハレ得ヘシ

(三) 上陸員ノ制服及武器着帶規則ノ問題ニ關シテハ現地官憲ニ對シ一九三一年六月三十日ノ規則ノ正確ナル實施ヲ期スル様嚴命セリ該規則ノ適用ハ兵卒及下士官級ニ對シテハ上陸ニ際シ必ス制服ヲ着用スヘキ義務アルコトヲ意味シ指揮官級ニ對シテハ公用ノ爲ノ上陸ニ際シ制服着用ノ可能ナルコトヲ意味ス從テ指揮官級ノ者カ平服ニテ上陸スルハ差支ナシ
同時ニ現地官憲ニ對シ臨時特別規則第六條第二項(平服ヲ着ケ上陸スル者ニ對スル規定)ノ適用ハ特務艦乗組員名簿ニ入り居

見學ヲ請旨ニ願ハル様ニテモ以テ本艦ハ船中ノ要アリ
諸艦ノ船中ノ要アリ

ラサル者ニ對シテノミ行ハルヘキモノナル旨ノ指令ヲ發セリ右後者ノ範疇ニ屬スル者ノ上陸ニ際シテハ現行「ソ」聯邦一般稅關及旅券規則ノ遵守ヲ要ス

(四) 上陸員ノ行動區域ノ問題ニ關シテハ一九三三年七月四日附外務部書翰中ニ説明シタルト同一ノ主義的立場ヲ固執スルト共ニ九月十一日附大使館書翰中ニ指摘セラレタル臨時特別規則第七條規定以外ノ地ノ見學ヲ現地官憲カ許可シタリトノ事例ハ一方ヨリスレハ正ニ一般的禁止令ノ存在ヲ確證スルモノタルト共ニ他方ヨリスレハ現行規則カ實際上何等ノ困難ヲモ惹起セサルコトヲ意味スルモノナリ

(五) 陸岸ニ於ケル撮影禁止ニ關スル問題ニ付テハ外國軍艦ニ對スル一般臨時規則第十九條及第二十條中ニ同様ノ規定アリ右規定カ國際慣例ニ合致セサルモノナリトノ大使館ノ主張ハ根據アルモノト認ムルコト能ハス

(六) 乗組員ニアラサル者ノ軍艦來訪規則ハ一九三一年ノ一般臨時規則第十八條カ再録セラレタルモノニ外ナラス從テ「ソ」聯邦諸港ニ來航スル外國軍艦ニ對シ本件ニ關シテ存在スル一般の制度ヲ引證シ得ルニ過キス

「ソ」聯邦外務部ハ本信及七月四日附書翰ニ於テ爲セル説明及註釋ニ依リ本問題ハ全ク調整セラレタルモノト看做ス

前記外務人民委員部ノ回答ハ本件ニ關スル同人民委員部ノ前回回答(七月四日附)ニ補足的註釋ヲ加ヘタルモノニ過キスシテ九月十一日附大使館公文ニ依ル我方主張ヲ其儘容レタルモノニハ非サルモ昭和八年中「オハ」現場ニ於ケル「ソ」側官憲ノ我カ特務艦ニ對スル態度ハ次項記載ノ通ニシテ我方主張ハ現實ニ於テ貫徹セラレタル次第ナリ

第二項 「オハ」官憲ノ特務艦ニ對スル態度

一、昭和八年度最初ノ特務艦佐多ハ六月十九日「オハ」ニ入港セリ
 「オハ」「ゲ、ベ、ウ」代表者等「ソ」官憲ハ同艦長ニ對シ昨
 年通り(一)乗組員ノ名簿提出(二)上陸員ノ制限(三十名迄)及(三)上
 陸員ノ名簿提出ノ三ヶ條ヲ要求シタルニ付艦長ハ右ヲ以テ國際
 慣例ニ背馳スル取扱ナリトシ悉ク之ヲ拒絕シ翌二十日及二十一日
 ノ兩回ニ亘リ約七十名宛ノ上陸及「オハ」油田見學ヲ斷行セリ
 右ニ對シ「ゲ、ベ、ウ」ハ十九日艦長ノ臨艦「ソ」官憲ニ對ス
 ル言明及二十日ノ乗組員ノ制限外上陸及「オハ」往訪等入港規
 則違反ニ關スル二通ノ調書ヲ作成シ會社港務課員ニ署名ヲ求メ
 タリ

次テ六月二十日早朝入港ノ場合モ前記同様ノ「ソ」側要求アリ
 タルモ艦長ハ之ヲ拒絕シタル爲「ゲ、ベ、ウ」ハ佐多同様入港
 規則違反ニ關スル調書ヲ作成セリ尤モ今回ハ時日ナカリシ爲上

陸ハ行ハサリキ

更ニ二十五日洲ノ崎入港、前記ト同様ノ經緯ヲ繰返シ結局特務艦側ハ「ソ」側ノ要求ヲ拒絶シテ上陸及「オハ」見學ヲ斷行シタルモ此度ハ「ソ」側ハ何等ノ調書ヲモ作成セサリキ

尙昭和八年特ニ注意ヲ惹キタルハ從來ニ比シ「ソ」官憲ノ態度頗ル懇勸ヲ極メタルコト是ナリ勿論地方官憲トシテハ前記ノ規則アル以上一應之ニ準據シテ敍上ノ如キ要求ヲナシ且調書作成ノ如キモ自己ノ責任上已ムヲ得サル所ニシテ從前ノ如ク直接間接我特務艦ノ行動ヲ妨碍スルカ如キコトハ全然ナク其ノ態度ノ穩健化セルコトハ近來ニナキ現象ナリキ

二、次テ七月二十一日特務艦洲ノ崎再入港ノ際「ソ」側ハ例ノ如ク三ヶ條ノ要求ヲナシタル爲我方ヨリ七月四日附「ソ」聯邦外務部回答（前項所載）ノ趣旨ヲ説明シタル處「ソ」側ハ斯ル訓令ニ接セサルヤノ趣ニテ其儘歸リ翌日ニ至リ口頭ヲ以テ特務艦側

ノ希望ヲ全部容認スル旨回答越セリ更ニ二十三日早朝入港ノ場
合ハ「ソ」側ヨリ單ニ上陸人員、移動地、日時ヲ表示セル願書
ノ提出ヲ求メタルニ依リ石油會社港務課ヨリ通告ノ形式ニテ之
ヲ通知スルコトニ諒解成リ總テ特務艦ノ要望ハ支障ナク達成セ
ラルルニ至レリ
次テ九月ニ至リ早朝、鶴見、隱戸、襟裳、及佐多等ノ我特務艦
相次テ入港セルモ總テ前記ノ如キ手續ヲ以テ其ノ欲スル行動ヲ
容認セラレ何等ノ紛議ヲモ見ルコトナク茲ニ我特務艦入港問題
ハ現地ニ關スル限り我方要望通り解決セララルルニ至レリ

本問題ニ
關スル我
方及「ソ」
聯邦側ノ
見解

第六款 北樺太石油利權財產關係諸問題
第一項 石油利權企業財產ノ歸屬問題

北樺太保障占領當時我方ニ於テ同地油田試掘ノ爲投資設備シタル
財產ハ其投資關係ヨリ見レハ帝國政府（海軍省）ノ投資設備ニ係ル
モノ及北辰會ノ出資設備セルモノ其ノ大部分ヲ占メ居ル處「ソ」聯
邦側ハ北京交渉ニ於テモ又利權契約締結交渉ニ於テモ此種財產カ工
業及鑛業企業ノ國有ニ關スル法令ニ依リ全部「ソ」聯邦ノ所有ニ歸
セルモノナリトノ見解ヲ主張シ我方ノ所有權ヲ承認スルニ至ラザリ
シ爲右財產歸屬問題ハ何等解決セララルコトナクシテ利權契約ノ締
結ヲ見タル次第ナリ然ルニ右利權契約ノ締結後「ソ」聯邦側ハ「ソ」
聯邦政府財產ニシテ利權者ノ使用ニ供セララルモノニ對シテハ利權
者ニ於テ當該財產評價額ノ四「パーセント」ノ使用料ヲ支拂フヘシ
トノ利權契約ノ規定ニ基キ「ソ」聯邦財產ノ引渡ヲ行フ爲右ニ關ス
ル引渡調書及評價調書ニ署名方ヲ我方當業者ニ迫リ來リタルヲ以テ

莫斯科ニ
於ケル交
渉經過

帝國政府ニ於テハ右企業財産ノ所有權ノ「ソ」聯邦政府ニ歸屬スヘキ理由ナシトノ見解ヲ基礎トスルモ已ムヲ得サル場合ニハ財産歸屬問題ヲ離レテ實際の見地ヨリ本問題ヲ解決スルコトトナシ從來我方カ北樺太ニ於テ施設シタル石油及石炭企業關係財産ニシテ今後引續キ利權當業者ニ於テ使用セントスルモノニ付テハ利權契約締結後當業者ニ於テ新ニ設備スル財産ト同一ノ取扱（使用料ヲ支拂ハサルコト勿論ナリ）ヲ受クヘキコトニ取極ムル方針ヲ以テ大正十五年十二月以來「ソ」聯邦當局ト交渉シ來リタリ而シテ右我方ノ申入レニ對シ最初「ソ」聯邦側ハ（一）利權地域内ニ存在スル財産ハ總テ「ソ」聯邦政府ニ屬スルモノニシテ（二）該財産ハ工業及鑛業企業ノ國有ニ關スル法令ニ依リ國有トナリタルモノナリト主張シ北樺太占領當時我方ノ施設シタル財産ニ付テスラ其ノ所有權ヲ主張シタルカ其後坂井組合ニ係ル「ソ」聯邦財産使用料請求訴訟ニ關聯シ昭和三年七月在「ソ」聯邦酒匂代理大使ニ於テ一般財産歸

屬問題ニ關シ「ソ」聯邦當局ト懇談審議ヲ遂ケタル結果「ソ」聯邦側ハ漸ク其ノ主張ヲ緩和シ北樺太占領當時日本側カ投資設備シタル財産ニ付テハ「ソ」聯邦側ノ所有權ヲ主張セサルニ至リ次テ昭和五年二月ニ至リ「ソ」聯邦當局ハ私見トシテ法人又ハ組合タル當該財産關係者カ日「ソ」何レノ法人又ハ組合トシテ登録シアルヤニ依リテ財産ノ歸屬ヲ決スヘシトノ意嚮ヲ洩スルニ至レリ

一方我方關係官廳及當業者ニ於テハ從來通出資關係ニ依リ財産ノ所屬ヲ決定スルコトヲ希望シ居ル關係アリタルヲ以テ帝國政府ハ(一)北樺太占領當時ノ石油及石炭事業關係財産中(1)日本政府(海軍)ノ出資設備セル財産(2)北辰會三菱等日本企業者ノ單獨出資設備セル財産及露國人ヨリ買收シタル財産並ニ(3)日本企業者露人間ノ共同事業關係財産中日本側ノ單獨出資ニ依リ設備シタルモノ及初メ露國側カ出資設備シタルモノ其後日本側ニ於テ加工増設改造其他ノ爲經費ヲ支出シ其ノ經濟的價值ヲ著シク増大セシメタルモノニ付我方所有權ヲ認メ

「ソ」側
ノ「キヤ
クロ」驛
舎使用問
題

シムルト共ニ(二)前記共同事業關係財産中日本側現在ノ利權事業遂行ニ關係ナキモノ殊ニ現在露國側ニ於テ使用中ノモノハ日本側ニ於テ互讓的交渉ニ應スル用意アルコトヲ示シ尙(三)右二點ニ關シ「ソ」聯邦側ニ於テ異議ナキニ於テハ我方當業者ト「ソ」聯邦地方官憲ノ間ニ財産ノ區別、評價、使用料額ノ決定其ノ他ノ爲細目交渉ヲ開始セシムルコトトシ昭和五年五月以來在「ソ」聯邦大使ニ於テ右我方方針ニ從ヒ「ソ」聯邦當局ト懇談ヲ重ネタルカ「ソ」聯邦側ハ財産歸屬問題ハ利權契約ノ規定ノ範圍内ノ問題ニシテ從テ利權者ト「ソ」聯邦當局官憲トノ間ニ於テ交渉セラレサルヘカラサルモノナリトノ主張ヲ固持シ我方トノ外交交渉ヲ回避シテ今日ニ及ヒ居レリ

第二項 「ソ」聯邦側ノ我方石油利權財産收用問題

「北樺太石油利權企業關係財産ノ所屬ニ關シ未タ日「ソ」兩國政府間ニ協定ヲ見ルニ至ラサルコトハ上述ノ通ナルカ昭和六年四月ニハ「オハ」鑛山監督官ハ同地石油會社ニ對シ「キヤクロ」驛舎カ爨ニ

「キヤク
ロ」ト
シイ「一
棟ノ建
物ニ對
スル側
ノ不當
措置

提出セラレタル同會社財産目録（昭和五年四月一日財在）中ニ記載
ナキヲ理由トシテ「ソ」聯邦側ニ於テ自由ニ使用スヘキ旨ヲ申出來
リタルニ付會社ハ前記財産目録ハ會社自身ノ財産ノミニ關スルモノ
ナルカ右ノ外日本政府所屬財産ニシテ會社ニ於テ保管シ居ルモノモ
少カラスシテ右「キヤク」驛舎モ亦其ノ一ナル旨ヲ説明シ「ソ」
側ノ申出ヲ拒否スルト共ニ政府財産ノ一部トシテ當時問題トナリ居
タル北樺太東海岸驛舎ノミノ目録ヲ提出シ置キタリ
然ルニ昭和七年一月一日「ソ」聯邦當局ハ會社ニ對シ「キヤク」
「トシイ」兩驛舎ヲ含ム北樺太東海岸ニ散在スル十一棟ノ建物及「
チャイウオ」無線電信所ノ引渡ヲ要求シ來リ我方出先官憲ノ再三ノ
注意ニ拘ラス「ソ」聯邦側ハ先ツ「キヤク」驛舎（會社ニ於テ倉
庫トシテ使用中ナリシモノ）ノ收用ニ着手シ遂ニ同月十四日同驛舎
内ニ闖入シ屋内ニ保管セル物品ヲ屋外ニ持出シタル上學校トシテ使
用スルニ至レリ

帝國政府
ノ措置

本問題ニ關スル日「ソ」當局間交渉ノ埒開カサル間ニ「ソ」聯邦側ハ更ニ會社ニ於テ番入ヲ附シ驛舎トシテ使用中ナリシ「トシイ」驛舎ヲモ同年二月六日限り引取ルヘキ旨ヲ在「オハ」帝國總領事館分館ヲ通シ會社ニ通告シ來リタルヲ以テ帝國政府ハ「ソ」聯邦側ノ右不法措置ヲ我方ニ於テ黙過スルニ於テハ當ニ此種財産ニ對スル「ソ」聯邦側容喙ノ端ヲ開クノミナラス歸屬問題ノ交渉上我方ノ立場ヲ勘カラス不利ナラシムヘク他方右驛舎ノ問題ニ關聯シ「ソ」聯邦側ヨリ進ンテ財産歸屬問題解決方ヲ提議シ來ルコトハ我方ニ於テ何等不便トスル所ナキ次第ナルヲ考慮シ「ソ」聯邦中央當局ニ對シ前記財産カ我方利權企業財産ニシテ此種財産ハ日「ソ」兩國政府間ノ協定ニ依リ其ノ所屬ノ決定ヲ見ル迄「ソ」聯邦側ニ於テ自由ニ之ヲ使用シ得ヘキモノニ非サルコトヲ申入レ「ソ」聯邦側ノ注意ヲ喚起スルコトニ努メタル結果同年三月十三日ニ至リ「ソ」聯邦側ハ利權會社ニ於テ事實右驛舎ヲ使用シ居リ又「ソ」聯邦側ニ於テ強テ必要

ナキモ經由イタリ「ソ」聯邦側ニ氣ヲ自由ニ取ルヘキ旨ヲ申出
 出ルモノハ同會社換算日爲（驛舎）等四日一日積算）中ニ驛舎

トセサルニ於テハ同年中ハ「ソ」聯邦ニ於テ右驛舎ノ收用ヲ見合ス
ヘキ旨我方ニ言明スル所アリタリ

然ルニ右「ソ」側中央當局ノ言明ニ拘ラス現場ニ於テハ依然右驛舎
ノ使用ヲ續ケタルヲ以テ在「オハ」帝國總領事館分館主任ハ右不法
行爲ニ付同地「ソ」官憲ノ注意ヲ喚起スルト共ニ「サガレン」中央
當局ニ抗議方ヲ在亞港總領事ニ請ヒタル結果同年十二月二十七日同
地外務部代表ハ同總領事ニ對シ「キヤクロ」驛舎ハ從來通利權會社
ニ使用セシムヘキ旨現場官憲へ發令シタル旨述ヘタルカ翌昭和八年
三月十日ニ至リ現場「ピリツウン」官憲ハ亞港當局ヨリ指命アリタ
ル趣ニテ右驛舎ヲ明渡スニ至レリ

尙「トシイ」驛舎ニ關シテハ昭和七年十二月三十日「オハ」區執行
委員會長ヨリ同地帝國總領事館分館主任ニ對シ石油會社ノ同驛舎使
用期間ヲ更ニ延長スルコトトナリタル旨言明スル所アリタリ

第三項 「オハ」第十五號鑛區内建物撤去問題

北樺太保障占領當時我「チャイウオ」方面守備隊ノ専用セル營舎（「ソ」側財産）有線電話室、無線通信室、無線發電所及附屬炊事場（以上石油會社財産）ハ北樺太行政引渡後「ソ」側ニ於テ引繼使用シ來リ現在「オハ」第十五號礦區内ニ「ソ」官衙勤務員用宿舍トシテ殘存シ居ル處石油會社ハ昭和七年ニ入り「オハ」勞働監督署ヨリ技術安全規程ニ依リ前記建物附近ニ所在スル會社側貯油「タンク」ノ周圍ニ防火用ノ巨大ナル土壕（「タンク」ト同容量）ノ築造方ヲ命セラレ極力反對シタル結果「ソ」側ハ遂ニ軟化シ右土壕ノ代リニ前記建物ノ撤去方ヲ提議シ來リタリ依テ會社ハ右「ソ」側ノ提議ニ從ヒ昭和七年十月六日「オハ」區執行委員會長ニ對シ「ソ」側所有ニ係ル建物ノ撤去方並會社財産タル有線電話室外二棟ノ明渡方ヲ請願シ同時ニ前者ニ付テハ賠償ニ應スヘキ旨申入レタルカ容易ニ回答ニ接セサリシ處其後會社ハ產油地帯タル前記建物所在地ニ於テ油井ヲ掘鑿スルノ要ニ迫ラレ昭和八年三月再度執行委員會長ニ右請願ヲ

爲シタリ

然ルニ「ソ」側ハ會社及「ソ」官意ノ許可ナクシテ建築セラレタル
 個人家屋ニ付テハ漸次取拂ニ着手シタルモ前記「ソ」側建物ニ付テ
 ハ勿論會社所有ノ前記三棟ニ付テモ其ノ所有權歸屬問題ヲ關聯セシ
 メテ撤去ヲ肯セサルノミナラス右撤去ニ關スル賠償問題ニ付テハ何
 等會社ニ諮ル所ナク會社所有ノ前記建物及一九三二年中「ソ」側カ
 勝手ニ建設セル建物迄モ含マシメ十七萬七千四百二十五留餘（内會
 社建物ノ分三萬二千八百十留餘）ト云フカ如キ法外ナル評價ヲ爲シ
 一方的ニ作成セル之カ評價謫書ヲ會社ニ提示シ來リタルヲ以テ會社
 ハ其ノ無暴ナル評價ヲ難スルト共ニ會社建物三棟ニ付テハ鑛山監督
 ニ提出シアル會社財産目錄ニモ明示セラレ居リ其歸屬明カナルヲ以
 テ之カ賠償ハ當然其要ナキ旨ヲ主張セルモ「ソ」側ハ中央ニ於ケル
 財産歸屬權問題未解決ノ今日該建物ニ對スル會社ノ所有權ヲ認ムル
 能ハスト主張シテ讓ラス越テ六月十六日双方代表者及「オハ」帝國
 分館員立會ニテ建物ノ實地檢分行ハレ會社側代表ヨリ種々説明スル

所アリタルニモ拘ラス執行委員會ハ會社宛前記提示ニ係ルモノト同
 様ノ評價調書ヲ送付シ來リ依然會社建物ノ賠償及法外ナル評價ヲ固
 執シタリ

然ルニ其後會社側ニ於テハ事業計畫實現ノ爲速ニ該地點ニ於テ油井
 掘鑿ノ必要ニ迫ラレ居ルヲ以テ八月中旬執行委員會議長ニ對シ若シ
 「ソ」側ニ於テ全建物ノ急速撤去困難ナルニ於テハ不取敢最初ニ掘
 鑿スヘキ坑井附近ノ會社財産タル前記三棟ノ明渡ヲ實現セラレタク
 同建物内居住者ノ爲ニハ別ニ會社ノ住宅ヲ提供スヘク又之カ賠償ニ
 關シテハ中央ノ解決ヲ待チ「ソ」側ニ歸屬スルコト明トナラハ會社
 側ニ於テ正確ニ之カ賠償ノ責ニ任スヘキ旨ノ念書ヲ提出スルモ可ナ
 リトノ趣旨ニテ交渉ヲ試ミタルモ「ソ」側ハ先ツ第一ニ評價額ヲ決
 定シタル後ニアラサレハ爾餘ノ問題ニ付審議シ難キ建前ナルモ爲念
 一應執行委員會議長自ラ該建物及會社ノ提供スヘキ宿舍ヲ檢分スヘ
 シト答ヘ八月下旬執行委員會議長ハ會社側財産ニ屬スヘキ無線電信所

外二棟及會社ノ提供スヘキ宿舍等ヲ實地檢分シ同時ニ會社側ノ懇請ヲ聽取シタル結果從來ノ強硬ナル態度ヲ改メ好意的措置ヲ講スヘキ旨約スル所アリ其ノ後會社ニ於テハ右無線電信所附近ニ豫定通り坑井槽ノ築造ニ着手シタルカ「ソ」側ニ於テモ何等ノ代償ヲモ要求スルコトナク漸次該建物三棟ノ明渡シニ着手シ九月下旬ニハ三、四家族ヲ殘シ全部立退キタル趣ニテ會社側モ「ソ」側ノ誠意ヲ認メ必要ノ場合ハ右殘留家族ノ爲ニ會社宿舍ヲ一時提供スルモ可ナリトノ意嚮ヲ有シ居レリ

斯クテ財産歸屬權問題ニ關聯シ強硬ナル態度ヲ固持シ居リタル「ソ」側モ最後ニ至リテ急ニ軟化シ何等ノ要求ヲモ爲サスシテ會社側建物ノ明渡ヲ實行シ結局暗ニ該建物ノ會社所屬財産タルコトヲ認メタル貌トナレリ

茲ニ於テ今後ハ所謂財産歸屬權問題ヲ離レ單ニ「ソ」側財産ニ屬スヘキ建物ニ對スル賠償價格ノ商的協議事項ノミノ問題トナリタリ

第七款 「オハ」及「チヤイウオ」無線電信所關

係諸問題

第一項 「オハ」及「チヤイウオ」無線電信所

運用並引渡問題

一帝國海軍カ北樺太保障占領當時同地石油調査事業ニ便スル爲「オハ」及「チヤイウオ」ノ兩地ニ設備シタル長波無線電信所ノ運用ニ關スル問題ハ大正十四年一月二十日締結ノ日「ソ」基本條約附屬交換公文並ニ同年五月一日亞港ニ於テ締結セラレタル右兩無線電信所ニ關スル議定書ニ依リ之ヲ將來ノ協定ニ留保シ將來私人及外國人ノ無線電信所設置ヲ禁止スル「ソ」聯邦現存法令ニ合致スル方法ニテ調整セララルヘキモ右調整ヲ見ル迄ノ間ハ「ソ」聯邦當局ノ監督ノ下ニ運用ヲ繼續スヘキコトトナリ次テ同年十二月締結セラレタル北樺太石油利權契約第三十四條ニ從ヒ利權者タル北樺太石油會社ニ於テ專ラ右兩無線電信所ノ運用ニ當ルコトトナレリ

一方右兩無線電信所ノ引波及運用ニ關スル協定ヲ目的トスル日「ソ」兩國政府間ノ交渉ハ大正十五年十月以來莫斯科ニ於テ行ハレタルカ種々折衝ノ結果(一)日本文字符號使用問題並ニ(二)電信「コード」使用問題ニ關シテハ大体彼我主張ノ一致ヲ見タルノミナラス尙(三)運用時間割當問題(四)日本人通信手ノ雇傭條件ニ關スル問題(五)日本人通信手ニ代ハルヘキ「ソ」聯邦通信手ノ資格認定ニ關スル問題(六)電報ノ檢閱問題及(七)電信料問題ニ付テモ彼我主義ノ接近ヲ見ルニ至リタルカ其後右懇談ハ進捗セス中絶ノ形ニテ今日ニ及ヒ居レリ

而シテ右「オハ」無線電信所ノ運用ニ關シテハ大正十五年五月十三日在亞港鈴木總領事代理及同地外務部代表「アボルチン」ノ間ニ左ノ如キ暫定的取極成立シ爾來右取極ニ依リ該無線ノ運用行ハレ居レリ

「オハ」無線問題ノ最終的解決ヲ見ル迄其ノ運用ハ左記條件ニ

ヨリ日本通信手ニヨリ行ハルヘシ

(一) 雜典文字ヲ使用ノコト

(二) 日本無線電信所トノ事業用交信ハ國際「コード」使用ノコト

(三) 電報ハ發信ニ先立チ事務處理ノ爲之ヲ露國通信手ニ轉交スヘ

シ受信シタルトキ亦同シ

(四) 祕密ヲ保タムトスル場合ハ電報ニ郵便人民委員部ノ許可シタ

ル「コード」ヲ使用シ得

尙「チャイウオ」無線電信所ハ大正十四年以來閉鎖シ修理ヲ加ヘ

サレハ運用ヲ開始シ得サル状態ニ在ル處同無線電信所モ「オハ」

無線電信所同様我方ニ於テ之カ經營運用ノ權ヲ有スルモノニシテ

其ノ必要ニ應シ改修ヲ加ヘ運用ヲ開始シ得ルハ當然ノ義ナルモ「

ソ」側ハ「オハ」及「チャイウオ」無線電信所ノ引渡及運用ニ關

スル一般問題ニ係ラシメ右改修ニ異議ヲ唱フル處アリタル爲右改

修問題ハ未タニ解決スルニ至ラス

「オハ」日本無線電信所ハ上述ノ通運用ヲ繼續シ來リタルカ「ソ」
 聯邦側ハ同無線電信所通信ニ關スル特權ヲ制限セントシツツアル
 モノノ如ク(一)夙ニ昭和二年八月二十二日「ソ」聯邦側ハ同無線電
 信所ニ於テ無料取扱ヲ爲シ得ヘキ電信ノ範圍ヲ(イ)利權企業ニ直接
 關係ヲ有スル會社用電報ニシテ日本及亞港ニ向ケ發信セラルルモ
 ノ並ニ(ロ)利權企業ニ勤務スル勞働者及從業員ノ電報ニシテ亞港ニ
 向ケ發信セラルルモノニ限り且右以外ノ電信ニ付テハ「オハ」郵
 便局ヲ經由スヘキコトヲ要求シ來リ斯クテ「ソ」聯邦側ハ同無線
 電信所ヲ以テ利權財產トナスノ見解ヲ持シ右見地ヨリ同無線電信
 所ノ使用ヲ利權關係者ニ局限スルト共ニ同無線電信所ニ關スル前
 記大正十五年五月ノ暫定取扱ニ於テハ在「オハ」帝國總領事館分
 館ノ暗號電報ノ發信ヲ禁シ居ルモノト解シ同無線電信所ニ於テ右
 暗號電報ヲ取扱フコトヲ禁止セントスルノ舉ニ出タルヲ以テ我方
 ハ右暫定取扱ハ同無線電信所ノ使用範圍並ニ料金ニ關係ナキノミ

ナラス此種事項ニ付テハ「オハ」及「チヤイウオ」兩日本無線電信所ニ關係シ在「ソ」聯邦帝國大使及外務人民委員部間ニ交渉中ニシテ右交渉ノ結果協定成立スル迄ハ我方ニ於テ從來通自由ニ「オハ」無線電信所ヲ使用シ得ルコト當然ニシテ「ソ」側郵便局申出ノ如ク「ソ」聯邦側ニ於テ勝手ニ條件ヲ定メ得可キ筋合ニアラサル旨ヲ以テ應酬シタル結果「ソ」聯邦側モ昭和二年十一月二十四日ニ至リ同無線電信所ノ運用ニ關シ日「ソ」兩國政府間ニ於テ解決ヲ見ル迄ハ同無線電信所ノ運用ハ從來通トナスヘキコトヲ承認シ來リタリ

第二項 「オハ」及亞港間無線交信杜絶問題

一方在亞港「ソ」聯邦無線電信局ハ昭和四年十月初旬ニ至リ在「オハ」我方無線電信所ノ呼出ニ應セサリシヲ以テ我方ヨリ其ノ理由ヲ訊シタル處「ソ」聯邦側ハ在亞港帝國總領事ニ對シ同年十月十日附ヲ以テ(一)前記不應答ハ純然タル技術上ノ理由ニ因ルモノニシテ同月

九日右兩者間ノ無線聯絡ハ復舊シタルコト(二)「オハ」亞港間無線聯絡ハ全部短波機ニ移サレ長波機ハ補助機トシテ殘置シ居ルモノニ過キサル故ニ「オハ」亞港間ノ交信ハ必スシモ長波機ニ依ルコトヲ要セス且右ハ所謂鈴木「アボルチン」協定ノ違反ニ非サルコト(三)若シ長波機ノ運用停止シタル場合ニハ在「オハ」「ソ」聯邦短波機「ステーション」ハ在「オハ」我方無線電信所問題ノ解決ヲ見ル迄從來通石油會社ノ電報ヲ故障ナク且正確ニ受付ケ之ヲ送信スルニ付亞港「オハ」間ニ新設セラレタル右送信方法ハ毫モ石油會社ノ利益ヲ毀損スルモノニアラサルコトヲ回答シ來リタリ然ルニ右「ソ」聯邦側ノ言明ニ依レハ在亞港電信局ハ隨時長波機ノ運用ヲ中止シ得ヘク然ル場合ニ於テハ縱令「ソ」聯邦側ニ於テ「オハ」發亞港宛電報ヲ無料ニテ送信スルトスルモ在「オハ」我方無線電信所ハ右範圍ニ於テ所謂鈴木「アボルチン」協定ニ依ル其ノ運用ヲ阻止セララル結果トナルヲ以テ我方ハ昭和四年十月十六日附ヲ以テ前記「ソ」聯邦側ノ

言明ニ對シ假令在「オハ」「ソ」聯邦短波機「ステーション」カ故障ナク且正確ニ石油會社ノ通信ヲ發受スルトスルモ在「オハ」我方無線電信所ノ亞港トノ通信ハ「ソ」聯邦地方官憲ノ一方的行爲ニ依リ停止スルコトヲ得サルモノナル旨ヲ申入レ「ソ」聯邦側ハ口頭ヲ以テ右申入ノ次第ハ在亞港「ソ」聯邦電信局長ニ通知シ置キタルニ付將來理由ナク長波機ニ依ル交信ヲ停止スルカ如キコトナカルヘキ旨ヲ言明シタリ

前記「ソ」聯邦側ノ言明ニ拘ラス其後在亞港「ソ」聯邦無線電信局ハ在「オハ」我方無線電信所ノ呼出ニ應セサルコト屢々ニシテ我方ヨリ抗議シタル當座辛シテ前記呼出ニ應スルニ過キササル状態ヲ反覆シ來リタルカ昭和七年ニ入り右亞港無線電信所ハ全然在「オハ」我方無線電信所ノ呼出ニ應セサルニ至レリ而シテ是ヨリ先在「オハ」「ソ」聯邦當局ハ我方ヨリ執拗ニ亞港、オハ間無線連絡復舊ヲ迫リタル爲在「オハ」我方無線電信所ノ對亞港通信權ヲ尊重スル意味ニ

第八全暗電機ニ對シテ
 武日亦兩答問ノ要録ニ據ルニ
 「オハ」「ソ」聯邦無線電信所ノ對亞港通信權ヲ尊重スル意味ニ

於テ自發的ニ「オハ」發亞港宛我方電信ノ無料發信ヲ引受ケ之ヲ有
 線電信ニ依リ送信シ來リ我方ニ於テモ亞港無線電信局カ在「オハ」
 我方無線電信所ノ呼出ニ應セサルハ主義上不都合ト認メタルモ右聯
 絡ノ不能カ技術的事由ニ因ルモノトセハ「ソ」聯邦側技術ノ改善ニ
 待ツ外ナキノミナラス在「オハ」「ソ」聯邦郵便局ニ於テ從來通「
 オハ」亞港間我方電信ノ無料發信ヲ引受ケ居ル限り我方通信上何等
 實害ナキヲ認メ「ソ」聯邦側ニ於テ前記技術的事由ヲ匡正スル迄ノ
 間ニ限り且從來通我方無線電信割當時間ヲ留保スルコトヲ條件トシ
 テ暫ク在「オハ」「ソ」聯邦當局ニ依ル前記我方電信ノ無料發信ヲ
 繼續セシメ經過ヲ見ルコトトシタル處同年七月ニ入り在「オハ」
 「ソ」聯邦郵便局ハ石油會社ニ對シ極東通信部長ノ命ニ依ルト稱シ亞
 港宛電報ハ直接郵便局ニ差出スヘク且有料ニ非サレハ受理セサル旨
 ヲ注意シ來リ次テ九月二十二日同郵便局ハ同地帝國總領事館分館ニ
 對シ文書ヲ以テ「ソ」聯邦内地宛電報ハ總テ有料取扱ナルコトヲ通

告越スト共ニ在「オハ」分館主任ノ再三ノ抗議ヲ無視シ右取扱ヲ強行セル爲同分館及石油會社ハ亞港宛電報ニ付料金ヲ假ニ支拂フノ餘儀ナキニ至レリ

然ルニ元來「オハ」我方無線電信所ハ之ニ關スル根本問題カ兩國政府間ニ協定セラルルニ至ル迄ハ石油會社ニ於テ引續キ運營スル所ナルヲ以テ會社カ同電信所ヨリ亞港ニ發スル送信ニ付「ソ」側ニ料金ヲ支拂ハサルハ當然ニシテ實際ニ於テモ從來之ヲ支拂ヒタルコトナシ而シテ前記ノ通同電信所ノ運營ハ會社ニ於テ之ヲ行フモ同電信所ハ本來日本政府ノ所有財産タルヲ以テ「オハ」分館ノ電報モ亦從來會社ノ電報同様ニ同電信所ニ依テ發信セラレタルハ之亦當然ナリ、「ソ」側ハ昭和四年十月在亞港佐々木總領事宛同地外務交渉員ノ公文ヲ以テ「オハ」トノ交信ハ必スシモ亞港長波機ニ依ル必要ナク亞港「オハ」ノ連絡ハ原則トシテ短波機裝置ニ依ルヘキコトヲ述ヘ「オハ」ニ於ケル「ソ」側短波機「ステーション」ハ會社ノ電報ヲ從

來通り故障ナク且正確ニ受理及送信スヘキ旨申越ノ次第アリ該公文
 ニハ無料ニテ右電報ヲ送信スヘキコトハ述ヘ居ラストスルモ「ソ」
 側カ我方無線電信所ノ本來發シ得ヘキ送信ヲ「ソ」側自身ノ都合ニ
 依リ自方ノ無線電信所ニテ發スルコトトセル以上其ノ送信カ無料タ
 ルヘキハ當然タルト共ニ我方ハ又我方無線電信所カ發信シ得ヘキ電
 報ニ付テハ右カ「ソ」側有線電信ニ依ツテ送信セラルルニ對シテモ
 無料ヲ主張シ得ル筋合ナリ斯克テ前記公文ニ依ル方法カ爾來實行セ
 ラレ我方電報カ「ソ」側ニヨツテ無料送信セラレタルニ拘ラス上述
 ノ通突如極東通信部長カ無料送信ノ理由ナシトセルハ不都合ナリ依
 テ我方ハ右趣旨ニ基キ昭和七年十月十九日在亞港總領事ヲシテ同地
 外務部代表ニ抗議セシムルト共ニ「ソ」側カ我方「オハ」無線電信
 所ヨリノ送信ヲ亞港ニ於テ受信スル措置ヲ執ルカ然ラスンハ從來通
 「ソ」側ニ於テ無料送信スヘキコトヲ申入レシメタリ
 然ルニ同外務部代表ハ種々ノ口實ヲ設ケ容易ニ確答ヲ與フル模様ナ

カリシ處他方在哈府總領事代理ヨリ同地當局ニ接衝ヲ重ネ右交渉ヲ支援スル所アリタルモ同當局ハ無料送信ハ之ニ關スル取極ナキヲ以テ實施シ難キコト及「オハ」亞港間無線連絡ノ復舊ハ技術的ニ不可能ナルコトヲ主張スルノミニテ徒ニ本問題ノ解決ヲ遷延セシメ其儘今日ニ及ヘリ

第三項 「オハ」及日本間無線交信時間延長問題

斯ノ如ク亞港及「オハ」間無線連絡復舊問題ハ解決ノ見込立タサルニ至リタルノミナラス主義ノ問題ハ暫ク措キ實際問題トシテ前記無線連絡ハ會社ニトリ左シタル利益ナキ趣ニテ會社ニ於テハ右問題ノ解決スル迄暫定的ニ既存ノ日本トノ交信時間ハ從來通留保シ亞港トノ交信時間（午前八時ヨリ同九時迄）ヲ本邦トノ交信ノ爲利用スルヲ營業上得策ト認メ右様實施シ得ル様「ソ」當局ニ交渉方ヲ在「オハ」帝國總領事館分館主任ニ願出タルニヨリ同主任ハ昭和八年六月八日附公文ヲ以テ右趣旨ヲ「オハ」通信部長ニ申入レタル處同部長

ヨリ同年七月三十日附ヲ以テ亞港「オハ」間ノ無電交信ノ復舊ハ之
 ヲ豫想シ居ラサルモ日本及「オハ」間交信時間ノ延長ニ異議ナキ旨
 回答越セリ
 而シテ我遞信省ニ於テモ右交信時間ノ延長ニ異存ナカリシヲ以テ此
 旨「オハ」「ソ」當局ニ通告スルト共ニ亞港及「オハ」間無線交信
 問題ニ關シテハ莫斯科ニ於テ交渉中ナル旨ヲ申入レタル處右交信時
 間ノ延長ハ八月二十六日ヨリ支障ナク實施セララルニ至リタル趣ナ
 リ

第八款

北樺太石油會社利權企業地輸入物資ニ

對スル露貨公定相場適用問題

北樺太石油會社カ利權契約ニ基キ駐日「ソ」聯邦通商代表部ノ許可ヲ受ケ利權企業地ニ輸入スル同會社勞働者及従業員用物資ノ賣價ハ同通商代表部ノ輸入許可證所載ノ露貨建「サハリン」C I F 値段ニ一定率ノ諸掛ヲ加算シタル額ヲ以テ定メラレ從來ハ販賣ニ先チ故障ナク現地鑛山監督官ノ認可ヲ受ケ居タル處北樺太「ソヴイエト」官憲ハ最近其態度ヲ改メ昭和七年度ニ於テハ右物資ノ輸入總額ニ對シ又昭和八年度ニ於テハ其ノ品種及數量ニ大削減ヲ加ヘントセリ然ルニ右ハ何レモ會社側ノ強硬ナル反對ニ遭ヒ失敗スルヤ現地鑛山監督官ハ昭和八年八月二十五日附書面ヲ以テ會社ニ對シ重工業人民委員部ノ指令ニ依リ會社従業員ニ供給スル物資ノ値段ハ圓對留ノ公定相場ニヨリ確認セラルヘキモノナルニ付今後輸入スヘキ物資ニ付テハ

勿論今回輸入セル物資ニ付テモ公定相場ヲ以テ賣價ノ計算換ヲ要ス
 ヘキ旨申越スト同時ニ會社ヨリ提出セル賣價認可申請書ヲ却下シ來
 リタリ依テ會社ハ右輸入物資ノ價格カ前述ノ通露貨ニテ表示セラレ
 居ルノミナラス駐日「ソ」聯邦通商代表部ニ於テ正式ニ之ヲ認可シ
 居ル以上更ニ現地ニ於テ之ヲ問題トスルノ不當ナルコトヲ責メ却下
 セラレタル右申請書ヲ再ヒ提出シタル處同鑛山監督官ハ公定相場ニ
 依ル賣價ヲ以テ申請スルニ非サレハ之ヲ認可セサル旨重ネテ申越シ
 タリ其后鑛山監督官ハ會社ヨリノ申入ニ基キ腐敗シ易キ物資ニ付テ
 ハ便宜ノ措置トシテ從來ノ價格ニテ販賣スルコトヲ許容セルモ會社
 ニ於テハ本問題ノ根本的解決ヲ期スル爲中央交渉ニ訴フルト共ニ在
 「オハ」帝國總領事館分館主任ニ本件交渉支援方ヲ求メタリ
 右會社ノ依頼ニ基キ同分館主任ハ九月十四日外務部「オハ」出張員
 ニ對シ本件認可ヲ與ヘサル爲會社勤務員及勞働者ニ對スル物資配給
 ニ支障ヲ來シタル場合其ノ責任ハ「ソ」側ニ於テ之ヲ負フヘキモノ

ナル旨ヲ申入レ至意買價ヲ認可スル様辦施行ヲ安呈シタル結案同出
 旅員ハ九月十九日附ヲ以テ嶺山監會員ハ石橋八郎ノ原價力剛向ノソ
 レニ比シ高價ナルコト判明セル場合ハ會社ニ到シ留該納品明細書ノ
 擬四方ヲ市ノ石原價ノ確認ヲ要求スル權利ヲ確保スルコトトスル
 モ此際買價側ノ物賣配給ニ支障ナカラシムル爲メ外ノ措置トシテ本
 件輸入品ノ買價ヲ認可スル旨向答シ來リ唯別科ニ於ケル買價側
 父シモ買價安呈廻禮リタル趣ニシテ本件同趣ハ一ト允ツ解決セル次第
 ナリ

（中略）申入レ同社ニ會社員ノ與出シテ買價認可申請書ヲ提出シ來
 候備令回辦入サバ時賣ニ付テ子公家休取マ以テ賣買ノ情實察マ理ス

第九款 勞働關係諸問題

第一項 邦人勞務者ニ對スル一時的勞働不能手

當問題

北樺太石油會社邦人勞務者（管理部員ヲ除ク社員、勤務員、勞働者）ハ「ソ」聯邦社會保險ノ被保險者タル關係上罹病等ノ爲一時的勞働不能ニ陥リタルトキハ所謂一時的勞働不能手當ヲ支給セラレ居レル處此等邦人勞務者ハ全部職業組合員タラサルモ日本人ノ特種事情ヲ考慮セル極東社會保險部ノ特別通牒ニ依リ職業組合員ト同一ノ取扱（平均賃銀ノ全額ヲ受ク）ヲ受ケ來リタリ

然ルニ中央社會保險局ハ一九三二年五月二十五日附回章ヲ以テ外國人ニ對スル年金及手當裁定ニ關スル新規則ヲ制定シ被保險者カ職業組合員タルト否トニ依リ又其ノ「ソ」聯邦滞在期間ノ如何ニ依リ一時的勞働不能手當ノ支給率ニ差等ヲ附スルニ至リタリ依テ「オハ」社會保險部ハ昭和七年十二月初メ右新規則ニ基キ同年十一月十五日

ヨリ邦人被保險者ニ對スル一時的勞働不能手當ニ關シテハ「ソ」聯邦ニ於ケル就業最初ノ三ヶ月間ニ限り組合員同様平均賃銀ノ全額ヲ支給スヘキモ滯「ソ」三ヶ月後ニ罹病セルトキハ非組合員同様ノ取扱ヲ爲シ罹病ノ最初ノ三十日（曆日）ニ對シテハ賃銀ノ半額ヲ、夫レ以後ノ期間ニ對シテハ三分ノ二ヲ支拂フヘキ旨會社ニ通告シ來リタリ

一方「オハ」社會保險部ニ勤務セル邦人主義者齋藤某ハ邦人勞働者ニ對シ右規則ノ趣旨ヲ宣傳シ組合加入ノ得策ナルコトヲ説得シタル由ニテ勞働者中ニハ一時之ニ動サレタル者アルヤノ氣配アリタリ事態右ノ如クナリシニ鑑ミ會社ハ「オハ」社會保險部ニ對シ（一）右回章ニ實施期日ナキコト（二）全額手當ヲ受領シ居リタル從來ト同一額ノ社會保險料ヲ納入シ居ル現状ナルニ拘ラス前記回章ノ適用ヲ受クルハ不當ナリトノ趣旨ヲ以テ抗議スルト共ニ本社ヨリ會社莫斯科駐在員ニ命シ中央當局ニ交渉セシムル所アリタル結果同年十二月三十一

日ニ至リ露西亞共和國勞働人民委員代理ヨリ非組合員タル外國人ニ對スル一時的勞働不能手當ニ付テハ一九三三年中ハ從來通ノ取扱ヲ爲スヘキ旨回答越シタリ斯克テ「オハ」社會保險部ハ新規則ノ適用ヲ停止シ從來通ノ取扱ヲ爲スルニ至リ昭和八年一月二十九日昭和七年十一月十五日以降不足拂トナリ居リタル金額三百八十七留三十八哥ヲ邦人被保險者ニ追給スヘキモノトシテ一括會社ニ支拂ヒタル趣ナリ

第二項 本邦ニ於テ支拂ハルル「ソ」聯邦社會

保險關係各種扶助料ノ留對圓換算率問題

北樺太石油利權企業ニ於ケル雇傭勞働ニ關聯シ「ソ」聯邦社會保險ノ救濟ヲ受クルモノニシテ本邦ニ在住スルモノニ對スル各種扶助料ノ支拂ハ在本邦「ソ」聯邦領事館ヲ通シテ行ハレ其ノ際中央社會保險局ノ露貨ニ依ル査定額ハ之ヲ邦貨ニ換算ノ上當該扶助料權者ニ支拂レ居ル次第ナルカ右換算率ハ從來久シク米貨ヲ基礎トシ米日爲替相場ニ依リ留ニ對スル圓換算額算定セラレ居リタルモ米貨ノ動搖ヲ見ルニ及ヒ佛貨法ヲ仲介トセルニ至レリ然ルニ佛貨ヲ中介トシテ算定セラルル扶助料額ハ區々トシテ其ノ換算ノ基礎判然セサルモノアリタルヲ以テ北樺太石油會社ヨリ在東京「ソ」聯邦總領事館ニ照會セル處右ハ「ソ」側中央當局ニ於テ直接圓貨ニ換算ノ上在本邦各領事館ニ通知スルモノニシテ此等各領事館ハ單ニ仲介ノ勞ヲ執ルニ過キサル旨ノ回答アリタル趣ナリ

因「一」聯邦中央社會保險局查定本邦人關係扶助料ノ留ニ對スル
 圓對價左ノ如シ
 (1) 在東京總領事館關係

扶助料受領者	昭和八年 中央社會保險 局查定額(留) 額(圓)	總領事館 支給留ニ對スル 貨ノ割合
小川市太郎 (本人)	一〇〇。一四	一。〇三九
古谷 義雄 (遺族)	五〇。三八	一。〇三三
新田 政治 ()	九一。一七	〇。六九三
山下 米吉 ()	九八。九一	〇。六九三
目黒 虎一 ()	四七。六九	〇。六〇三
加藤定兵衛 ()	六九。〇〇	〇。五二〇
萩原 孝七 ()	八〇。八八	〇。五一九
吉田 金吾 ()	六九。三九	〇。五一九
小林 又吉 ()	三八。八九	〇。五一九

第二市
 本邦人關係扶助料ノ留ニ對スル
 圓對價左ノ如シ
 (1) 在東京總領事館關係

（口）函館領事館關係

扶助料受領者	中央社保局決 定額（留）	總領事館ヨリ 支給額（圓）	留ニ對スル圓 貨ノ割合	（因ニ北樺太鑛業會社關係邦人勞働者ニ關シテモ全様ノ問題起リツ	
				ツアル趣ナリ）	ツアル趣ナリ）
宮川 清作（遺族）	七一。七八	七五。三五	一。〇四九		
埴見 竹藏（本人）	六七。五六	七〇。一〇	一。〇三七		
友兼 平治（遺族）	九六。一八	九九。五四	一。〇三四		
石島定太郎（本人）	五六。九三	五八。八三	一。〇三三		
山本五三郎（本人）	八〇。九〇	八二。九〇	一。〇二四		
大島 軍治（本人）	九一。〇八	六二。六七	〇。六八八		
阿部政一郎（本人）	九八。四八	六七。七七	〇。六八八		
堀川菊太郎（遺族）	七四。二五	五〇。九九	〇。六八六		
齋藤仙治郎（本人）	九七。六五	五九。四二	〇。六〇八		
長島六三郎（本人）	五三。四六	一八。二六	〇。三四一		

函館領事館關係
中央社保局決
定額（留）
總領事館ヨリ
支給額（圓）
留ニ對スル圓
貨ノ割合

第三項

勞働法第四十七條一ハ」項ノ解釋適用問題
 (石炭利權ノ部第一款第六項參照)

「ソ」聯邦中央執行委員會及人民委員會議ハ一九三二年十一月十五日附ヲ以テ一相當ノ理由ナキ欠勤者ノ解雇」ニ關スル決定ヲ發布シ
 一現行勞働法ハ一ヶ月ニ三日相當ノ理由ナクシテ欠勤スル場合同欠勤者ヲ解雇スルコトヲ許容シ居レルモ右ハ失業者ナキ現在ニ於テハ欠勤者ヲ増加シ從テ生産ノ常規ノ進展ト勤勞大衆ノ利益トヲ害スルモノナリ」トノ理由ヲ以テ左ノ通定メタリ

(一)露西亞共和國勞働法第四十七條(ハ)號及他共和國勞働法ノ當該條項ヲ廢止ス

(二)假令一日ト雖モ相當ノ理由ナクシテ欠勤スルトキハ欠勤者ハ企業又ハ官廳ノ附與セル食料及商品配給手帳ノ使用並ニ同企業又ハ官廳ノ家屋内ニ居住スルノ權利ヲ剝奪セラルヘキモノトス

(三)各共和國政府ニ對シ勞働法ノ當該條項ノ改正ヲ命ス

次イテ露西亞共和國中央執行委員會及人民委員會議ハ十一月二十日

附決定ヲ以テ同共和國勞働法第四十七條ハ號ヲ削除シ第四十七條ノ
 一トシテ右決定ノ(二)ヲ追加セリ
 依テ北樺太石油會社ハ右新規則ノ適用ヲ受ケンカ爲團體契約附錄第
 八號會社企業ニ於ケル内部管理基本規則第一條第二項「本規則ハ(イ)
 現行法令及現行團體契約ノ變更(ロ)作業條件又ハ企業組織ノ變更ノ場
 合ニ之カ變更及追加スルコトヲ得」トノ規定ニ基キ「オハ」職業組
 合機關ニ對シ團體契約附屬罰則ノ一部ノ變更方ヲ申出タリ
 然ルニ相當ノ理由ナキ欠勤者解雇ニ關スル一九三二年十一月十五日
 附一ソ」聯邦中央執行委員會及人民委員會議決定適用ニ關スル一九
 三二年十一月二十六日附一ソ」聯邦勞働人民委員部訓令第十四條ニ
 ハ「右決定ハ個人企業(利權企業ヲモ含ム)ニ適用セス」ト明記シ
 アルヲ以テ「オハ」區勞働監督官ヨリ右決定ノ利權企業適用可否ニ
 關シ中央機關ニ照會シタル處勞働人民委員代理一ラデュース、ゼン
 コーウイツチ」ヨリ右決定ハ個人企業(利權企業ヲモ含ム)ニ適用

スルヲ得ストノ回答アリタル爲組合側ハ會社側ノ申出ヲ拒絕セリ
而シテ一ソ」聯邦労働人民委員部ハ更ニ一九三三年六月十七日附ヲ
以テ個人企業労働者ノ怠業ニ由ル解雇手續ニ關シ左記要項ノ解説ヲ
發表シ利權企業ニ對シ飽ク迄偏頗ナル取扱ヲ爲サントスル態度ヲ明
カニシタリ

(一) 一九三二年十一月十五日附一ソ」聯邦中央執行委員會及人民委員
會議決定ハ個人企業(利權企業ヲ含ム)労働者ニ對シ之ヲ適用セ
ス

(二) 個人企業(利權企業ヲ含ム)ニ於ケル欠勤労働者ノ解雇ニ付テハ
前記決定ノ發布以前ニアリタル規定ヲ其儘適用ス
然ル處上述ノ通本件ニ關スル基本法タル一九三二年十一月十五日
附一ソ」聯邦中央執行委員會及人民委員會議決定ノ第一項ハ何等
ノ但書乃至條件ヲ附スルコトナク露西亞共和國労働法第四十七條
(一)項ヲ廢止スト規定シ露西亞共和國ニ於テハ右ニ從ヒ同年十一月

二十日附決定ヲ以テ無條件ニテ前記勞働法規定ヲ右基本法ノ通改訂シタルモノナルニ依リ從來ノ勞働法第四十七條(一)項ハ完全ニ廢棄セラレ最早ヤ存在セサルニ至リタルモノナリ然ルニモ拘ラス「ソ」聯邦勞働人民委員部ハ其ノ後ニ至リ個人企業(利權ヲ含ム)ニハ新規則ヲ適用セス舊規定ヲ其儘適用スルモノナル旨ノ解釋ヲ下シ其旨布告シタルハ右「ソ」聯邦ノ基本法乃至露西亞共和國勞働法改訂實施ノ權能ナキ「ソ」聯邦勞働人民委員部ニ於テ右兩法ヲ改訂スルモノニシテ違法ノ手續ト云ハサルヲ得ス依テ北樺太石油會社ニ於テハ昭和八年十一月利權條件改善ニ關スル對「ソ」諸要求中ノ一項トシテ本問題ヲモ包含セシメテ「ソ」聯邦政府當局ニ交渉スルコトトシタリ

第十款 訴訟問題

第一項 概説

昭和八年度ニ於ケル會社關係ノ刑事訴追事件ハ皆無ナリシモ（後掲熊倉「エハビ」支所長刑事訴追事件ハ該民事裁判ノ第一審ニ對スル上告ノ判決無キ爲未ダ豫審取調ナシ）出來高作業（請負制度）生産高標準並ニ評價ニ關聯シ石油労働者組合鑛場委員會ヨリ労働賃銀追加拂要求ノ訴訟ヲ提起セラレタルモノ數件アリ

團體契約第二十四條ニ依レハ出來高評價並ニ生産高標準ハ會社ノ定ムルトコロト規定シアルモノ右ニ關シ會社及「プロムコム」間ニ著シキ懸隔アル場合尠カラス之カ審議ハ團體契約第八條ニ基キ双方ノ代表者ヲ以テ構成サルル評價爭議委員會ニ於テ行ハルル事ニ規定セラレアリ然ルニ右評價爭議委員會ニ於ケル協定ハ「プロムコム」カ不當ニ見積レル過大ナル評價ヲ固執スル結果不調ニ終ル事屢々ニシテ其都度「プロムコム」ハ自己ノ評價ニ基キ會社ノ支拂ヒタル賃銀ト

ノ差額追加拂要求訴訟ヲ「オハ」人民裁判所ニ提起スルヲ常トス
 而シテ「オハ」人民裁判所ハ州執行委員會ニ依リ一年ノ任期ヲ以テ
 任命セラルル判事ヲ裁判長トシ之ニ全然法的知識ナキ二名ノ參審員
 (主トシテ勞働者)ヲ加ヘタル合議裁判ニ依リ組織セラレ居ルヲ以
 テ常ニ黨又ハ組合ノ勢力ニ左右セラレ爲ニ會社側ノ合法的主張モ斥
 ケラレ或ハ正當ニ附與セラレタル權利ヲ不當ニ制扼セラルル事殆ト
 常態ナルカ從來ハ上級裁判所タル在哈府極東地方裁判所ニ上告ノ結
 果大體會社側ノ勝訴ニ歸シ來レル有様ナリキ
 然ルニ昭和八年一月一日施行ノ極東地方行政區劃改正ノ結果薩哈噠
 管區ハ薩哈噠州トナリ亞港ニ所在スル州裁判所カ「オハ」人民裁判
 ノ直接上級裁判所トナリ其ノ審議振ニ付テハ未タ上告セル事件ノ判
 決アリタルモノ無キ爲不明ナリ

次項以下ニ於テ昭和八年度中ノ重ナル訴訟事件ヲ舉ケ説明スヘシ
 第二項 蒸氣汽罐組立出來高作業賃銀追加拂ニ關スル

「プロムコム」提訴問題

昭和七年十月五日ヨリ二十一日迄ノ間ニ會社ハ邦人勞働者三名及露人勞働者四名ニ對シ汽罐組立ヲ出來高作業ニ依リ行ハシメ其ノ賃銀三百二十留ヲ支拂ヒタル處「プロムコム」ハ同年七月「エハビ」鑛場ニ於テ同一汽罐カ出來高作業ニ依リナサレタル時ニハ平均賃銀一人當リ日給十留トナリタルヲ以テ同一基礎ニ依リ算定スル時ハ其ノ賃銀ハ六百七十九留トナリ又勞働法第百十一條並ニ團體契約第二十條規定ノ休日前日ノ百六十二時間ニ對シテモ其レニ相當スル賃銀支拂ハルヘキモノトシテ「オハ」人民裁判所ニ賃銀支拂要求訴訟ヲ提起セリ

之ニ對シ「オハ」人民裁判所ハ昭和八年四月二日附ヲ以テ次ノ如ク判決ヲ下シタリ

(一) 會社ハ一九三二年「エハビ」鑛場ニ於ケル同種類ノ汽罐組立作業ニ對シテ日本人勞働者六名ノ爲セル三十二人工ノ作業ニ一日十

留ヲ支拂ヒタリ本作業ハ綜合出來高作業ノ性質ヲ帶ヒタルモノナルヲ以テ同一料率ヲ採用スヘキ根據ヲ與フルモノナリ

(二)、双方ノ提出セル見積書ヲ見ルニ「プロムコム」ハ十四種類ノ各部分ニ分チ又會社ハ八種類ニ分チテ作業單價ヲ算定シ居ル處會社側見積書ハ極度ニ壓縮セル形ニ於テ作製セラレ又裁判所ニ於テ「プロムコム」記載條項ノ不要ナルヲ反駁セス

(三)、休日前ノ時間ニ對スル支拂ニ關シテハ出勤簿ニ依リ六時間ヲ順當トス

右ニ依リ會社ハ「プロムコム」ニ對シ勞働者七名ノ未拂賃銀差額金三百五十九留ヲ支拂フヘキ義務アル事ヲ認メ、其他ノ訴訟部分ニ關シテハ之ヲ却下ス

此處ニ於テ會社側ハ右判決ノ不當ナル理由トシテ

(一)、「プロムコム」ハ本作業ノ單價ニ對シ不同意ナル時ハ團體契約第二十七條ニ依ル評價爭議委員會ノ審議ニ付スル必要アルニモ不

拘之ノ手續ヲ取り居ラス

(二) 本作業ニ於テ會社ハ別ノ見積書ヲ有セシヲ以テ過去ニ於ケル同種作業ト綜合的性質ヲ帶フルモノニアラス

(三) 「エハビ」ニ於テ汽罐組立ニ關スル同一作業ノ行ハレタル場合ノ平均賃銀十留ハ定給トシテノ根據トナル事ハ如何ナル法規ニモ規定シアラス又「プロムコム」ノ見積書ニ對シテモ會社ハ異議ヲ有スルモノナリ

等ヲ擧ケ亞港州裁判所ニ對シ第一審判決不服ノ控訴ヲ提起セリ

第三項 解雇「ソ」國勞働者ニ對スル宿舍

明渡訴訟事件

昭和七年十月六日季節勞働終了ト共ニ解雇セラレタル「ソ」國季節勞働者十二名其他自己ノ願ニ依リ離職セル者四名及十一月二十二日開催評價爭議委員會決定ニ依リ譴責解雇處分ヲ受ケタル者二名計十八名ハ二週間以内ニ宿舍ヲ立退クヘキ義務（一九三二年―三三年現

行団体契約第五八條)ヲ有スルニモ拘ラス昭和八年三月ニ至ルモ會社宿舍ヲ明渡ササリシニ付會社ハ三月二十七日附ヲ以テ前記十八名ヲ相手取り宿舍明渡要求訴訟ヲ「オハ」人民裁判所ニ提起セリ

右ニ對シ「オハ」人民裁判所ハ四月二十一日附ヲ以テ會社ノ訴訟ハ正當ナルモノニシテ訴訟提起ヲ受ケタル總テノ勞働者ハ団体契約第五八條ニ依リ會社トノ作業關係ヲ失ヒタルモノトシテ宿舍ヨリ立退クヘキモノナルモ家族持ニ關シテハ薩哈噠ノ條件、個人宿舍ナキコト「ソ」聯邦石油「トラスト」側ニ宿舍ノ餘裕ナキ事及大陸トノ交通杜絶シ居ル事情ヲ考慮シ航路開始前速刻宿舍ヲ立退カシムルコトハ許容シ難シトシ(一)獨身者四名及「トラスト」ニ就職セル者三名計七名ハ一週間以内ニ宿舍ヲ立退クヘキ事(二)家族持十一名ハ初航船ノ到着ヲ待チ立退クヘキ事ヲ判決セリ

依テ會社ハ右判決ハ會社ト蘇聯邦石油勞働者組合トノ間ニ締結セラレタル団体契約第五八條記載ノ合法的權利ヲ制限シタルモノトナシ

且家族持ナル勞働者ニ對シテハ種々ノ事情ヲ考慮シテ開航期迄宿舍
 利用ヲ許容ストアルモ元々會社側ノ要求ニ依リ浦潮ニ於テ「ソ」國
 勞働者傭入ノ際「ソ」側勞働部ヨリ家族ニ對シテハ宿舍ヲ提供セス
 ト豫告シアルニモ拘ラス勝手ニ自己ノ家族ヲ收容セルモノナルニ依
 リ全然其ノ理由ヲ認ムルヲ得ストナシ五月五日「オハ」人民裁判所
 經由亞港州裁判所ニ判決不服ノ控訴ヲ提起セリ
 尙前記不法居住者ハ右判決アリタル後ヨリ七月十五日浦潮傭入ノ露
 人勞働者ノ「オハ」到着迄ノ間ニ全部宿舍ヲ明渡シ立退キタル趣ナ
 リ

第四項 「エハビ」試掘區域第二區伐採夫勞働爭議

ニ關スル「プロムコム」提訴並ニ熊倉「エ
 ハビ」支所長訴追問題

會社ハ「エハビ」試掘區域第二區ニ於ケル伐採作業ヲ八名ノ露人勞
 働者ニ對シ出來高作業ニテ爲サシムヘク昭和七年十一月二十八日右

指令書ヲ労働者ニ内示セル處「エハビ」「プロムコム」(石油労働者組合鑛場委員會)代表「ベトリチエンコ」ハ指令書ノ條件ニ不同意ナリシ爲カ右指令書ヲ會社側ニ無斷ニテ「オハ」「プロムコム」ニ送致シ其儘打過キタルヲ以テ會社側ハ十二月十五日ニ至リ「プロムコム」代表カ出來高作業ヲ阻止セントセルモノトシテ調書ヲ作成セントセリ

此處ニ於テ「ベトリチエンコ」ヲ後盾トセル労働者ハ評價ノ低率ヲ理由トシテ契約書ニ署名スルコトヲ拒絶シタルヲ以テ會社側ハ団体契約第二四條ニ基キ十二月十六日該出來高作業指令書ヲ労働者食堂ニ揭示シ當日ヲ以テ出來高作業着手ノ日トナセリ次テ昭和八年一月十九日出來高作業ヲ檢收シタル處其ノ量カ定給賃銀ニ達セザリシ爲勞働者側ハ該作業ハ定備作業ナリト主張シ出シ「プロムコム」ハ會社ヲ相手取り一九三二年十二月十六日ヨリ三三年三月一日ニ至ル期間伐採ニ従事セル八名ノ労働者ニ對シ出來高評價ニ依ラス二級日額定

給(二留六四哥)ノ計算ニテ金一、二三二留八八哥ノ支拂ヲ要求スル訴訟ヲ「オハ」人民裁判所ニ提起セリ

右訴訟ニ對シ「オハ」人民裁判所ハ四月十五日附ヲ以テ(一)同作業ニ對スル評價カ評價爭議委員會ニ於テ會社「プロムコム」間ニ解決セサリシ事(二)會社ノ提示セル評價ノ低キ爲勞働者カ出來高作業ニ從事スルヲ拒絕セル事(三)會社ノ與ヘタル指令書ニハ管理部ノ署名無キ事等ヲ理由トシテ本出來高作業ヲ正當ナルモノト認メ得ストスル「プロムコム」ノ主張ヲ正當ナリトシ且本出來高作業契約書ハ數多ノ別個ノ作業種類ヲ等閑ニ附セル極メテ壓縮的ノモノニシテ其ノ結果遂行セラレタル作業ノ計算不足ヲ來シ勞務者ノ利益ヲ阻害スルモノナリト認メ(一)十二月十六日ヨリ三月一日迄ノ期間ニ對シ「プロムコム」要求通り日額定給ノ計算ニ依リ一、二三二留八八哥ヲ支拂フ事(二)三月中ニ於テモ勞働者ハ不確定ノ條件ノ下ニ伐採作業ニ從事シツツアルヲ以テ三月分ニ對シテモ日額定給ニ依リ支拂フ様「プロムコム」

ヨリ追加要求ヲ提示シ來レルニ依リ三月分ニ對シテモ又四月或ハ夫以後兩當事者間ニ出來高評價ニ關スル協定不成立ノ場合ハ該作業ニ對シ日額定給ニ依リ支拂フヘキ旨ノ判決ヲ下セリ

尙裁判所ハ右「プロムコム」ノ訴訟要求ノ承認及履行ニ關係ナク本事件ヲ審議シタル結果(一)會社管理部ハ団体契約ニ依ル適時協定問題ニ關シ組織的ニ勞働法規ニ違反シツツアリ(特ニ「エハビ」伐採作業出來高契約)(二)右ノ如キ場合實際ニ於テ數箇月ニ亘ル爭議ノ發生スル事稀ナラス爲之勞働者ニ對スル宿舍、食料品ノ保障方面ニ於ケル団体契約ノ違反アルヲ見受ケラル(三)賃銀ノ支拂適時ニ行ハレサル爲「プロムコム」ハ相互扶助基金ヨリ勞務者ニ金錢ノ貸出ヲ爲ササルヲ得サルノ餘儀無キニ至ル(四)種々ノ結果ヨリ推シテ爭議解決ノ遷延ヲ企圖シツツアルコト(五)根據ナキ理由ニ依リ「エハビ」鑛場長熊倉氏カ爭議ノ審理ヲ拒絶セルコト(六)根據ナクシテ勞務者家族ニ對スル供給ヲ停止セルコト、等ノ諸事項ヲ列舉シ右ハ總テ刑法第一三三

條第二項第一三四條第一項ニ該當スヘキ労働法違反ノ徵候ヲ示スモ
 ノニシテ熊倉氏ニ對シ刑事上ノ公訴ヲ提起シ之カ探查ノ爲豫審判事
 ニ通知スヘキ事ヲ附加セリ
 依テ會社ハ右判決ハ全ク法規乃至團體契約ノ規定ヲ無視セル不當裁
 判ナリトシ(一)團體契約第二七條ニ依レハ「組合機關又ハ各條ノ労働
 者及従業員ヨリ會社ノ定メタル評價及生産高標準ニ對シ抗議ヲ申込
 マルルモ之カ實施ヲ停止スルモノニアラス」トアリ又同第八條ニハ
 「評價爭議委員會ニ於テ解決スルコト能ハサル爭議ハ當該法律ニテ
 規定セル手續ニ依リテ解決セラルルモノトス」ト規定セルニモ拘ラ
 ス作業ノ評價力爭議委員會ニ於テ會社「プロムコム」間ニ解決セサ
 ル事及評價ノ低キ爲労働者カ出來高作業ニ從事スルヲ拒絶セル理由
 ヲ以テ會社ノ指示セル出來高作業ハ效力ナシト認メタル事ノ不當(二)
 團體契約第二四條ニ基キ會社ノ與ヘタル指令書ニ管理部ノ署名無キ
 コトハ出來高作業ノ不成立ヲ來スモノニ非サル事(三)本訴訟事件ハ伐

採作業ノ常備作業ナルカ出來高作業ナルカヲ決定スヘキモノニシテ
 出來高作業ノ單價ノ決定ヲ願ヒ出テタルモノニ非サルニモ拘ラス裁
 判所ハ何等ノ根據モ無ク本作業力數多ノ別個ノ作業ヲ等閑ニ附シタ
 ル極メテ壓縮的ノモノナリト認メ居ル事ハ全ク其ノ審議ノ當ヲ欠キ
 居ルモノニシテ若シ會社ノ評價力不當ナリト假定スルモ之ニ對スル
 支拂ハ團體契約第二七條ノ規定ニ基キ正當ト決定セル出來高單價ニ
 テ支拂フヘキモノニシテ決シテ日額定給ニテ支拂フヘキモノニ非サ
 ル事等ノ理由ヲ示シ且又「エハビ」支所長熊倉氏訴追ニ關シ裁判所
 ノ認定セル第一項乃至第六項ノ理由ハ何等根據ナク且事實相違セル
 事ヲ指摘シ四月二十八日附ヲ以テ「オハ」人民裁判所經由亞港州裁
 判所ニ第一審判決不服ノ控訴ヲ提起セリ

第五項 邦人勞働者十四名ノ出來高作業評價

ニ關スル「プロムコム」提訴問題

會社ハ「エハビ」鑛場ニ於テ邦人造材夫十四名ニ對シ出來高作業ニ

依リ蒸氣汽罐燃料用丸太伐採及其ノ挽割作業ヲ行ハシメ一九三二年十二月二十日ヨリ一九三三年一月三十一日迄ニ爲サレタル二米丸太伐採一、〇七一立方米半米短薪挽割五一二。三六立方米ニ對シ一、四八〇留六九哥ノ賃銀ヲ支拂ヒタリ而シテ右作業ハ二月一日ヨリモ更ニ繼續セラレタルカ「プロムコム」ハ四月ニ至リ

(一)、會社側評價ニ依レハ丸太伐採ハ一立方米ニ付八九哥又短薪挽割作業ハ一立方「サージエン」ニ付一〇留ナルモ「プロムコム」ノ評價ニ依レハ夫々一留八九哥及六留三八哥(一立方米ニ付)ニシテ其ノ合計五、二九三留〇五哥トナリ

(二)、又二月一日ヨリ二月二十八日迄ノ一、一二三立方米ニ對スル賃銀二、一二二留四七哥、三月一日ヨリ三十一日迄ノ一、四一一立方米ニ對スル賃銀二、六六六留七九哥合計四、七八九留三六哥トナレリ

(三)、依テ右ノ合計一〇、〇八二留三一哥ヨリ會社側ノ既ニ支拂濟ナ

ル金額一、四八〇留六九哥ヲ差引ケハ八、六〇一留六二哥トナリ
 之ニ勞働法第一一三條及團體契約第二六條ニ基キ祭日前ノ二時間
 及休養日ニ對シテ支拂ハルヘキ三八一留九九哥ヲ加算セル總計金
 八、九八二留六一哥ハ會社ヨリ勞働者ニ支拂ハルヘキモノナリ、
 トノ趣旨ヲ以テ「オハ」人民裁判所ニ賃銀支拂請求訴訟ヲ提起セ
 リ

之ニ對シ會社側ハ

(一)、一九三二年十二月三十一日ヨリ一九三三年一月三十一日迄ノ
 伐採出來高作業ノ評價ニ對スル異議ハ一九三三年三月三十一日
 ニ至リ初テ「プロムコム」側ヨリ提起セラレ四月七日開催ノ評
 價爭議委員會ニ於テ審議ノ際會社側ヨリ「團體契約第二七條ニ
 基キ標準及單價ノ抗議ハ當該作業ノ終了セサル内ハ許容セラル
 ルモ該作業ハ既ニ一九三三年一月三十一日ニテ終了セルカ故ニ
 抗議ノ期間終了セルヲ以テ本件ヲ審議スル必要無シ」ト述ヘ置

キタルモノナリ

(二)、又二月以降ノ作業ニ關シテハ評價爭議委員會ノ協定ヲ俟チ其ノ單價ヲ變更スヘク「プロムコム」カ獨斷ニテ決定シタル單價ヲ基礎トシテ賃銀ヲ算定セルハ團體契約規定ノ手續ニ違反ス、ノ理由ヲ以テ辯駁セル趣ナリ

次テ五月十五日「オハ」人民裁判所ハ終局判決ヲナシタルカ會社側ノ答辯ヲ正當ナリトシ

(一)、「プロムコム」ハ適時ニ抗議セサリシモノナルヲ以テ一九三三年一月三十一日迄ニ遂行セラレタル作業ニ付要求ヲナスノ權利ナシ

(二)、一九三三年二月一日ヨリ今日迄ノ作業及評價ニ關シテハ爭議カ作業完了迄ノ間ニ發生セルモノナル限り本出來高評價ノ協定及解説ニ關スル問題ハ團體契約第二七條ノ手續ニ於テ評價爭議委員會ノ審議スル處トス、ト認定シ

(一)、一月三十日迄ノ作業ニ對スル金三、八一二留三六哥ノ追加拂ヲ要求スル「プロムコム」提起ノ訴訟ヲ棄却ス

(二)、二月一日以降ノ作業ニ關シテハ「プロムコム」ノ適時抗議ヲ認ムルト共ニ會社側ノ申出ニ依レハ本作業ハ現在迄繼續セラレ居ルモノナルニ鑑ミ裁判所ノ管當スル處ニ非サルヲ以テ出來高評價決定ニ關スル爭議手續規定ニ準據セル審議ニ移牒ス、トノ趣旨ノ判決アリタリ

尙「プロムコム」側ニ於テハ右判決ヲ不服トシ「オハ」人民裁判所經由亞港州裁判所ニ控訴セリト云フ

會社ノ組
織、資本
及純益金

第二節 北樺太石炭利權關係諸問題

第一款 北樺太鑛業會社ノ石炭利權

第一項 北樺太鑛業會社ノ事業現況

北樺太鑛業會社ハ日「ソ」基本條約附屬議定書乙ニ基ク利權契約及同利權ニ關スル大正十五年ノ勅令第九號ニ依リ北「サガレン」石炭企業組合ノ事業ヲ繼承シテ大正十五年八月二十一日設立セラレタルモノニシテ其ノ公稱資本金ハ一千万圓、拂込資本金ハ五百万圓ナリ同會社ノ利權鑛區ハ北樺太西海岸ニ於ケル「ドウエ」、「マーチ」、「ヴラデーミルスキー」ノ三炭田ナルカ其ノ内目下稼行シツツアルハ「ドウエ」ノミナリ

過去ニ於ケル同社ノ營業成績ハ振ハズ辛シテ欠損ヲ免レ得タル實情ナリシカ昭和七年來稍見直シ昭和八年三月締切ノ昭和七年度決算ニ於テ八十五萬圓ノ純益金ヲ擧ケ創業以來始メテ株主配當（三分）ヲ行ヒタリ

採炭量

會社ハ昭和八年度事業計劃ニ於テ十三萬屯ノ採炭ヲ豫想シ居ル處
 同年十月末迄ノ實際採炭量ハ七萬四千二百七十五屯ナリ尙創業以
 來ノ採炭量左ノ如シ

大正十五年度 九〇四八 屯八四

昭和二年度 九五一四 五七〇

昭和三年度 一一〇五 五〇四

昭和四年度 一一〇〇 六一五

昭和五年度 一一〇〇 八〇〇

昭和六年度 一三〇六 五〇〇

昭和七年度 一一五五 五〇〇

内地送炭 昭和八年度ノ内地向送炭量ハ「ソ」側ヨリノ買炭ヲ併セ十七萬屯
 ノ豫定ナリシ處送炭實績ハ十六萬八千屯ニシテ右ノ中ニ「ハ」「ソ」

側ヨリ購入セル「マカリエフスキー」炭約四萬二千屯及「ロガ
 トイ」炭約一萬五百屯ヲ含ミ居レリ

勤務員及
労働者數

五 企業地ニ於ケル昭和八年八月一日現在ノ勤務員及労働者數八一、
二八五ニシテ之カ國籍別ハ日本人三九三、鮮人一五、支那人一四

ル

販路 四 「ドウエ」産石炭ハ製鐵用、鑄物用骸炭トシテ他ニ比ヲ見サル良
質ノモノニシテ主トシテ内地ノ主要製鐵所及骸炭製造所へ賣渡サ

ヲ含ム

因ニ創業以來ノ内地向送炭量左ノ如シ	
大正十五年度	九〇四〇
昭和二年度	四〇五六〇
昭和三年度	一〇、一四二五
昭和四年度	一一、一五〇〇
昭和五年度	一一、九〇〇〇
昭和六年度	一一、六四三〇
昭和七年度	一三、三五四〇
	(「ソ」側ヨリノ買炭九四七三吨ヲ含ム)

入港船舶
數

四、露人七三三ナリ
 而シテ冬期ニ入レル十二月一日現在ノ勤務員及勞働者數ハ夏期ニ
 比シ二百人余ヲ減少シ日本人二三七、鮮人一五、支那人一四四、
 露人六六九合計一、〇六五ナリ
 六 昭和八年航海期中「ドウエ」ニ入港セル會社關係船舶ハ三十五隻
 ニ達セリ

第二項 「マカリーリエフスキー」鑛區炭買受問題

「ソヴィエト」國營企業「ダリウーゴリ」カ北樺太鑛業會社「ドウエ」炭抗ト隣接セル「マカリーリエフスキー」鑛區ノ稼行ニ着手スルヤ會社カ貯炭場及海岸ヘノ運炭軌道用地トシテ借用中ノ同鑛區地表ノ即時返還ヲ求メ若シ返還不可能ノ場合ハ「マ」鑛區炭ヲ買取ヘキナリトテ法外ノ高値ヲ要求シタルニ對シ會社ハ貯炭場ハ返還スヘキモ之ニ代ル他ノ設備完成迄猶豫方ヲ請ヒタルモ先方ハ之ニ應セサルノミナラス會社ニ於テ右要求ノ何レヲモ承認セサルニ於テハ會社軌道ト平行セル軌道ヲ敷設シテ單獨搬出ヲナスヘシト申出タルヲ以テ會社ハ已ムナク昭和七年ニ於テ「マ」鑛區炭ノ買入レヲ爲シ兎モ角同年中ニ從來通該地域ノ使用ヲ認メシメタルカ昭和八年ニ於テハ内地石炭界活況ニ連レ「ドウエ」炭ノミヲ以テシハ註文ニ應シ切レサルニ至リタル一方前記借用地返還問題ノ再燃ヲ防止スル必要上「マ」鑛區炭ヲ買取ルコトトシ駐日「ソ」聯邦通商代表部ト交渉ヲ進メ五

月二日左記要項ノ契約ヲ締結セリ

一 數量、一「マカリエフスキ」鑛區炭三萬五千廳

一 受渡期日、一九三三年五月一日ヨリ十月一日迄

一 受渡場所、一「マカリエフスキ」炭坑貯炭場

尙會社ハ八月ニ入り更ニ同炭一萬噸ノ買増ヲ爲シタリ

第三項 「オクチャイブリスキー」鑛區炭買取問題

北樺太鑛業會社ニ於テハ昭和八年ニ入り出炭賣行好轉セル爲前記「マカリエフスキー」鑛區炭ノ外「オクチャイブリスキー」(舊名「ロガートイ」)鑛區炭ノ買取ヲ計畫シ居リシ處駐日「ソ」聯邦通商代表部ヨリ會社ニ對シ全炭買取方ヲ申出テタルニ付早速之ニ應スルコトトシ八月二十二日同通商代表部ト左記内容ノ契約ヲ締結セリ

(一) 受渡數量及値段

北樺太「ダリウーゴリ」所屬「オクチャイブリスキー」炭坑ノ出炭一萬
 砵乃至一萬五千砵ヲ「オクチャイブリスキー」炭坑海岸貯炭場渡
 値段ニテ購入ス

(二) 受渡期限、一九三三年八月二十五日ヨリ同年九月二十五日迄

(三) 代金支拂方法、積取船出帆後積込數量ニ關スル双方代表者ヨリノ
 電報接受直後東京ニ於テ行フ

(四) 特典、本契約ニ基キ積出サルヘキ石炭ニ對スル税金及手數量ハ其
 ノ種類ノ如何ニ拘ラス一切通商代表部ノ負擔トス

第四項 團體契約改訂問題

北樺太鑛業會社ノ昭和八年（一九三三年）度團體契約改訂交渉ニ關シテハ交渉相手タル「ソ」聯邦石炭工業労働者組合中央委員會ヨリ漸ク同年三月ニ至リ莫斯科ニ於テ右交渉ヲ行ヒ度キ旨會社ニ要望シ來リタル處會社ハ莫斯科ヲ交渉地トスルコトニ極力反對スルト共ニ同契約改訂ニ關スル「ソ」側ノ要望カ契約滿期二ヶ月前即チ一九三三年一月二十二日迄ニ會社ニ對シ通知セラレス從テ同契約ハ其儘一年間延長セラルヘキモノナルコトヲ同契約第七條ノ規定ニ基キ主張シタル結果「ソ」側ハ遂ニ會社主張ノ正當ナルヲ認メタルモノノ如ク契約延長ニ異議ナキ旨申越スト同時ニ二、三ノ特定條項ヲ浦潮ニ於テ商議シ度旨提議シ來リタリ依テ會社ハ右「ソ」側ノ提議ニ應シ商議ヲ開始シタル處商議纏リ五月十九日團體契約延長ニ關スル協定ノ調印ヲ見タリ

第五項

北樺太鑛業會社利權企業地輸入物資
ニ對スル露貨公定相場適用問題

北樺太鑛業會社カ利權契約第十七條ノ規定ニ基キ駐日「ソ」聯邦通商代表部ノ認可ヲ受ケ無稅ニテ利權企業地「ドウエ」ニ輸入スル同社勤務員及勞働者用物資ノ配給値段ニ關シテハ會社ハ同通商代表部ニ申告セル圓建「サガレン」CIE値段ニ一定率ノ割掛ヲ加算シタルモノヲ圓對留「バー」ニテ換算シ之ヲ配給値段ト爲シ配給ニ先チ現地鑛山監督署ノ認可ヲ取付ケ求レル處同鑛山署ハ昭和八年五月「ドウエ」入港ノ劍山丸ニテ輸入セル此種物資ノ配給値段ニ付容易ニ認可ヲ與ヘサルノミナラス重工業人民委員部ノ指令ニ依ル趣ヲ以テ該物資ノ圓建買入勘定書ノ提出方ヲ要求シ來レリ

會社ハ右要求ヲ一蹴スルト共ニ配給値段ノ認可ヲ督促セル處八月十七日鑛山監督署ヨリ會社側カ買入勘定書ヲ提出セサルニ於テハ送狀面ノ圓建「サガレン」CIE値段ヲ根據トスルヨリ外ナキモ從來ノ

圓留「バー」ノ換算ハ之ヲ認メス物資配給日ニ於ケル公定相場ヲ以テ換算ヲ要スヘキ旨申越シタリ

依テ會社ハ右「ソ」側ノ提案カ企業經營ヲ脅威スルコト及本件認可ノ遲延カ勞働者ノ不平ヲ誘發スル虞アルコトヲ理由トシテ從來通り取扱ハレ度旨懇談セルモ先方ノ納得スル所トナラサリシ爲會社ハ問題ノ性質上中央交渉ニ依リ解決ヲ期スルコトトシ此旨鑛山監督署ニ通知スルト共ニ中央解決ヲ見ル迄ハ從來通り認可アリ度旨重ネテ申入レタリ

其後鑛山監督署ハ會社ノ申入ニ依リ中央當局ニ請訓スルニ至レル處右回訓ニ接シタル趣ヲ以テ十月二十九日會社ニ對シ一九三一年ノ値段及現在ノ「オハ」石油企業ニ於ケル値段ヨリ高カラサル條件ニテ配給値段ヲ認可スル旨通知越スト共ニ申請書列記ノ物資中約五十品ニ付値下ヲ強要シ來リタルニ付會社ハ約一萬四千留ノ損失ヲ忍ビ右要求ヲ容レタル結果本件ハ一先ツ落着ヲ見タリ

第六項 勞働法第四十七條(ハ)項ノ解釋適用問題

(石油利權ノ部第九款第三項參照)

「ソ」聯邦中央執行委員會及人民委員會議ハ一九三二年(昭和七年)十一月十五日附ヲ以テ「相當ノ理由ナキ缺勤者ノ解雇」ニ關スル決定ヲ發布シ「現行勞働法ハ一ヶ月ニ三日間相當ノ理由ナクシテ缺勤スル場合合同缺勤者ヲ解雇スルコトヲ許容シ居レルモ右ハ失業者ナキ現在ニ於テハ缺勤者ヲ増加シ從テ生産ノ常規ノ進展ト勤働大衆ノ利益トヲ害スルモノナリ」トノ理由ヲ以テ左ノ通定メタリ

(一)露西亞共和國勞働法第四十七條(ハ)及他共和國勞働法ノ當該條項ヲ廢止ス

(二)假令一日ト雖モ相當ノ理由ナクシテ缺勤スルトキハ缺勤者ハ企業又ハ官憲ヨリ解雇セラレ且同企業又ハ官廳ノ附與セル食料及商品配給手帳ノ使用並ニ同企業又ハ官廳ノ家屋内ニ居住スルノ權利ヲ剝奪セラルヘキモノトス

(三)各共和國政府ニ對シ勞働法ノ當該條項ノ改正ヲ命ス
 而シテ露西亞共和國中央執行委員會及人民委員會議ハ同年十一月二十日附決定ヲ以テ同共和國勞働法第四十七條(ハ)號ヲ削除シ第四十七條ノ一トシテ右決定ノ(二)ヲ追加セリ

右新規則ハ勞働者ノ怠業氣分擡頭ノ爲「一ソ」側企業同様苦境ニ立テ
 ル我利權企業ニ對シテモ等シク適用セラルヘキ筋合ノモノナルニモ
 拘ラス「一ソ」側ハ一九三二年十一月二十六日附「一ソ」聯邦勞働人民
 委員會訓令第十四條ヲ以テ右規則カ個人及利權企業ニ適用セラレサ
 ル旨ヲ定メ北樺太鑛業會社ニ對シカ適用ヲ認メス斯クテ利權企業
 勞働者ノ缺勤ノ廉ニ依ル解雇ニ關スル準據法消滅スルニ至リ次項
 ノ如キ紛議發生ヲ見タル次第ナル處「一ソ」聯邦勞働人民委員會部ハ一
 九三三年六月十七日附ヲ以テ此種勞働者ノ解雇手續ヲ明カニスル爲
 左記要項ノ解説ヲ發表セリ

(一)一九三二年十一月十五日附「一ソ」聯邦中央執行委員會及人民委員

會議決定ハ個人企業（利權企業ヲ含ム）労働者ニ對シ之ヲ適用セ
ス

(二) 個人企業（利權企業ヲ含ム）ニ於ケル缺勤労働者ノ解雇ニ付テハ
前記決定ノ發布以前ニアリタル規定ヲ其儘適用ス

第七項 北樺太鑛業會社解雇勞動者ノ住宅明渡問題

昭和七年十月以降昭和八年四月四日迄ノ間勞働法第四十七條「へ」項違反ノ廉ヲ以テ北樺太鑛業會社ヨリ解雇セラレタル露人勞動者ニシテ會社住宅ノ明渡ヲ肯セサルモノ三十名（別ニ家族三十二名）ニ達シタル處右ハ一九三二年十一月二十日附露西亞共和國中央執行委員會及人民委員會會議決定ニ依リ即時立退ヲ命シ得ル筋合ノモノナルカ「サガレン」州勞働部ハ會社ノ照會ニ對シ二月三日附ヲ以テ該決定ハ利權會社ニ適用スルヤ否ヤ不明ナルカ故ニ勞働人民委員會部ニ請訓中ナリト文書ヲ以テ答ヘタル儘放置シ本件解決ヲ遷延セシメントシタルニ付會社ハ更ニ裁判所ニ解雇者ノ立退キヲ命セラレ度旨四月十一日附書面ヲ以テ要求シタルモ裁判所モ亦前記決定ノ適用ニ關スル明確ナル訓令ニ接スル迄ハ如何トモシ難シト應酬スルノミニテ更ニ埒明カサリシ爲在亞港帝國總領事ハ外交交渉ニ依リ解決ヲ計ルヨリ外ナキモノト認メ在「ハバロフスク」總領事代理ヲ通シ極東地

方「ソヴ イェト」當局ニ交渉方取計ヒタル結果六月三日外務部代表
ハ同總領事代理ニ對シ本件決定ハ一九三二年十一月二十六日附「ソ」
聯邦人民委員部訓令第十四條ニ明示セララル通利權企業ヲ含ム個人
企業ニ適用セラレサル建前ナルモ利權企業ノ特殊性ニ鑑ミ極東地方
執行委員會ニ於テハ會社側ノ要望ヲ容レ漸次住宅明渡ノ方針ヲ執ル
コトトナリ其ノ旨亞港官憲ニ指令シタルヲ以テ同地官憲ニ於テハ既
ニ若干住宅ノ明渡ヲ了セル旨述ヘタル趣ナリ

第八項 村山北樺太鑛業會社「ドウエ」鑛業

所長ノ勞働法違反事件

昭和五年四月村山「ドウエ」鑛業所長ハ左ノ理由ヲ以テ起訴セラレ「サガレン」管區人民裁判所ノ豫審ニ附セラレタリ

(一) 炭坑管理部ハ勞働監督ノ許可ナクシテ勞働者ヲシテ時間外作業ヲ行ハシメタルカ右ハ勞働法第百四條及同第百六條ニ違反スルモノナリ

(二) 第二坑、及第七坑ニ於テ洗物及乾燥場ヲ設置スヘキ旨ノ勞働監督ノ命令ヲ履行セサリシ結果兩坑ニ稼動シタル勞働者等感冒ニ罹リタルカ右ハ鑛山保安規定ニ違反スルモノナリ

(三) 牛肉ノ配給標準團體契約ノ規定ニ比シ減少シ又鹽魚ノ給與ハ昭和四年十二月以來中止セラレタルカ右ハ團體契約第二十五條ニ違反スルモノナリ

(四) 勞働者住宅面積ハ所定ノ標準ニ達セス約一千平方米不足シ且「バラツク」ニ乾燥室及物置ノ設備ナキカ右ハ團體契約第四十九條ニ

違反スルモノナリ

本事件ニ關スル公判ハ昭和六年十二月十五日「サハリン」人民裁判所「ドウエ」巡回裁判ニ依リ行ハレ刑法第三百三十三條（勞働法違反ノ罪）第二項ノ規定ニ照シ村山所長ニ罰金八千留ヲ課スヘキ旨ノ判決言渡アリタリ

會社側ニ於テハ右判決ハ事實ニ相違シ不當ナルモノニシテ之ヲ承服シ得サルモノナリトナシ同年十二月二十六日在「ハバロフスク」極東地方裁判所ニ控訴ノ申立ヲ爲シタル處同裁判所ハ原判決ヲ支持シ昭和七年二月十四日「サガレン」人民裁判所ノ判決ヲ有效トスル旨ノ決定ヲ下シタリ

茲ニ於テ會社側ハ同年十月五日「サガレン」管區檢事ニ對シ本件ニ關スル判決ハ不充分且不正確ナル取調ヲ基礎トスルノミナラス法規ノ適用ニ付テモ不當ノ點アルコトヲ指摘シ監督手續ニヨル本件ノ再審方ヲ求メタリ

第八頁
林山北林太
總業會
「ドウエ」
總業

然ルニ「サガレン」管區人民裁判所ハ會社側ヲシテ右再審ノ結果ヲ待タシメヌ同年十二月二十二日判決ニ依ル罰金八千留ノ即納ヲ要求シ且右納付ナキ場合ハ刑法第四十二條ニ基キ罰金刑ヲ他ノ刑罰ニ變更スルノ問題ヲ提起スヘシト申越シタリ依テ會社側ハ裁判所ト種々接衝シ本件ハ在「ハバロフスク」極東地方裁判所「ブレヂユーム」ニ審理方ヲ願出テ其ノ決定ヲ見ル迄罰金ノ納付ヲ猶豫セシムルコトニ打合セ昭和八年一月三十一日之カ手續ヲ執ルト共ニ在「ハバロフスク」總領事代理ニ何分ノ盡力方ヲ依頼セリ

然ルニ同總領事代理ノ盡力モ甲斐ナク極東地方裁判所「ブレヂユーム」ハ原判決ヲ有効ト認ムル旨ノ決定ヲ爲シ判決愈確定スルニ至リタル一方「ソ」聯邦中央當局ヨリハ大田大使ヲ通シ本件罰金納付ヲ督促シ來リタルヲ以テ會社ハ不滿ナカラ罰金ヲ納付スルノ余儀ナキニ至レリ

利權ノ管理委員

第二款 坂井組合ノ石炭利權

第一項 坂井組合利權ノ管理問題

一、坂井組合ハ日露條約ニ基キ大正十四年末莫斯科ニ於テ締結セラレタル利權契約ニ依リ北樺太西海岸「アグネヴォ」炭坑ノ經營利權ヲ得タル處本邦ニ於ケル炭界ノ狀況、資金其ノ他ノ關係上未タ積極的事業ニ着手シ得サル狀況ナリ依テ帝國商工省ノ希望モアリ本帝國利權ノ維持伸張ヲ期スルノ趣旨ニ基キ昭和五年六月十六日坂井組合ハ北樺太鑛業會社トノ間ニ契約ヲ締結シ後者ニ對シ主トシテ炭層調査ニ付「アグネヴォ」利權ノ管理ヲ委任シタリ

炭坑調査ノ實行

二、北樺太鑛業會社ニ於テハ右委任ニ基キ昭和五年八月東北帝國大學杉山助教及同大學學生ニ依囑シ約半ヶ月ニ亘リ「アグネヴォ」炭坑ノ調査ヲ行ヘリ

253

「ソヴィエト」當局ノ「アグネヴォ」炭坑視察

三、昭和六年八月十八日北樺太鑛山署長ハ専門技師等ヲ帶同突然「アグネヴォ」炭坑ニ至リ實地検査ヲ行ヒタル上炭坑カ斯克荒廢ニ委

「ソ」側
ヨリノ財
産使用料
請求訴訟
提議

シアルハ誠ニ遺憾ナルニ付詳細莫斯科ニ報告スヘシトテ一ノ文書
ヲ作成歸還セル趣ナリ

依テ北樺太鑛業會社側ニテハ坂井組合代表ヲシテ鑛山署長ニ對シ
「坂井組合ニ於テ決シテ炭坑ヲ輕視シ居ルニ非ス現ニ昭和五年ニ
モ調査ヲ遂ケタル程ニテ之ニ基キ今後ノ經營方法ニ付折角考量中
ナルモ目下炭界ノ世界的不況ノ爲目下ノ儘ニテハ採算立タサルニ
付新方法ニ依リ採炭ヲ再開シタキ意向ヲ有シ居ル」旨ヲ説明セシ
ムルコトトセル一方日本側ニテモ本炭坑ヲ輕視シ居ラサルコトヲ
「ソ」側ニ示サン爲ヲモ兼ネ北樺太鑛業會社「ドウエ」鑛業所長
自ラ昭和六年九月十三日同炭坑ヲ視察調査スル所アリタル趣ナリ

第二項 「ソヴェエト」聯邦最高國民經濟會議對坂
井組合訴訟事件

「ソヴェエト」政府側ハ北樺太保障占領中タルト否トヲ問ハス同
地ニ在ル一切ノ鑛業企業財產ハ國有令ノ效力ニ依リ「ソヴェエト」

坂井組合
ノ抗議

聯邦ノ國有トナレルモノナリトノ主張ヨリ出發シテ現在坂井組合ノ利權地域内ニ存スル露人「クヅネツオーフ」施設ニ係ル一切ノ有體財産設備ハ「ソヴィエト」政府ノモノニシテ坂井組合ニ於テ借用シ居ルモノニ外ナラスト爲シ從テ利權契約ノ規定スル所ニ依リ其ノ全價格ノ四「パーセント」ニ相當スル使用料ヲ毎年納入スヘキ義務アリト主張シ終ニ昭和三年六月利權契約當事者タル「ソヴィエト」聯邦最高經濟會議ヨリ坂井組合ヲ相手取り利權契約ニ規定スル爭議解決方法ニ從ヒ「ソヴィエト」聯邦最高裁判所ニ右使用料五千三百六十七留六十八哥請求訴訟ヲ提起シタリ

二之ニ對シ坂井組合側ハ北樺太石油、石炭事業關係財産ノ所有權問題ハ日露兩國政府間ノ交渉ニ依リ初メテ解決セラルヘキモノニシテ又現ニ之カ交渉進行中ナルニ顧ミ同組合トシテ前記訴訟ニ應スヘキ限リニ在ラストシ抗議シタリ

三、一方我政府ニ於テモ「ソヴィエト」政府ニ對シ本件使用料支拂ノ

爲ニハ先以テ問題タル財産中如何ナルモノカ「ソヴィエト」聯邦ノ所有ナリヤ否ヤヲ決スルカ先決問題ニシテ此問題決セラレテ始メテ利權契約ノ適用ヲ見得ヘキ處右問題ハ占領ノ法律的效力乃至北樺太引渡ノ效果ト關聯シテノミ決セラルヘキ處ナリ從テ右ハ性質上外交問題タルト共ニ現ニ兩國政府ハ右ニ關シ爭議繼續中ナリ然ルニ最高經濟會議カ右兩國政府間爭議ノ對象タル財産ニ付一方的ニ所有權ヲ認定シ使用料ノ請求訴訟ヲ提起セルハ甚タ不當ニシテ日本政府ハ右訴訟ノ判決ニハ服スル能ハサル旨ヲ嚴重ニ抗議セルモ「ソヴィエト」側ハ利權契約ニ依レハ利權地域内ニ於ケル「ソヴィエト」政府ノ財産ニ對シ使用料ヲ支拂ハルヘク而シテ利權契約ノ解釋及實行上ノ紛議ハ「ソヴィエト」聯邦最高裁判所ニ於テ解決セラルヘキコトカ規定セラレ居レリ本訴訟ハ右使用料ノ請求ニ外ナラスシテ若シ坂井組合カ使用料支拂ノ對象タル財産ノ所有權ニ付異議アラハ訴訟ニ於テ争フヘキモノナリ要スルニ本件ハ

最高裁判所ノ判決
及坂井組合貯炭ノ
差押

利權契約ノ範圍内ノ事項ニシテ之ヲ外交問題ト認ムルヲ得ス日本側ハ本件カ現ニ兩國政府間交渉ノ對象トナリ居レリト主張スルモ「ソ」側ハ日本大使館トノ交渉ニ於テ嘗テ前記建前ヲ拋棄シタルコトナシトノ主張ヲ固持シテ譲ラス

四、斯ル間ニ最高裁判所ハ昭和五年一月三十一日坂井組合ニ對シ使用料ヲ支拂フヘキ旨ノ判決ヲ下シ次テ同年六月「アグネヴォ」山元ニ於ケル同組合ノ貯炭五千屯ヲ差押ヘタルニ付組合側ニ於テハ右差押手續其ノ他ノ點ニ關シ異議ヲ申立タルモ何等ノ效果ナク「ソ」側「ソ」側ハ二回ニ亘リ右差押石炭ノ競賣ヲ行ヘリ但シ兩回共參加者ナク不成立ニ終レリ、右ニ對シテハ更ニ坂井組合ヨリ抗議ヲ爲シ在亞港帝國總領事事亦同組合ヲ支持シテ「ソ」側ノ注意ヲ喚起セルモ結局問題解決セス「ソ」側ニ於テモ本件ニ付何等ノ措置ヲ講スルコトナクシテ今日ニ及ヘリ

第三款 塚原組合ノ石炭利權

利權地域
ノ調査問
題

調査未着
手ノ理由
調査期間
延期ノ請
願
在東京一
ソヴィエ
ト「通商
代表部利
權委員會
トノ交渉

大正十五年二月塚原組合ハ「ソヴィエト」政府トノ間ニ利權契約ヲ
締結シ北樺太西海岸「コスチナ」ニ於ケル炭坑經營ノ利權ヲ獲得セ
ルモノナル處同契約ニ依レハ塚原組合ハ昭和二年十一月一日迄ニ炭田
ノ調査ヲ行ヒ昭和三年一月三十一日迄ニ調査地域中ノ一定部分ノ賦
與方ヲ北樺太鑛山署長ニ申請スヘク若シ右期間内ニ申請ナキ場合ニ
ハ利權契約ハ失効スルモノトセラレタリ
然ルニ本邦炭界不況ノ關係、資金ノ關係等ノ爲塚原組合ニハ契約所
定ノ期日内ハ勿論今日尙調査ヲ終ヘ事業ニ着手シ得サル有様ナリ
依テ塚原組合ハ昭和三年十一月十四日附ヲ以テ調査期間ノ延期ヲ「
ソヴィエト」當局ニ出願シタル趣ナリ
然ルニ翌昭和四年ニ至リ在東京「ソヴィエト」通商代表部利權委員
會ヨリ利權區域ノ調査並事業着手時期ニ關シ照會越セルヲ以テ塚原
組合ハ重ねテ同年十一月十四日前記事情ヲ具シ向フ一ケ年ノ延期ヲ
請願シタル處同委員會ヨリ昭和五年一月一日附ヲ以テ利權契約ヲ破

棄スヘシトノ通報ニ接スルニ至レリ依テ塚原組合ニ於テハ同委員會
 ニ對シ組合ノ立場ヲ説明シテ調査期間ノ延期方懇請シタル處莫斯科
 利權局ノ裁斷ニ待ツノ外ナシトノコトナリシヲ以テ重ネテ昭和五年
 二月十四日前記ノ如キ調査及事業着手期ノ遅レタル理由ヲ述ヘ昭和
 六年夏頃迄延期アリタキ旨ノ願書ヲ通商代表部利權委員會ニ提出シ
 タル趣ナリ右ノ結果事件ハ莫斯科ニ移サレタル儘ニシテ今日迄何等
 解決ヲ見ルニ至ラス

第三節 「サガレン」ニ於ケル英國會社ノ鑛業權問題

大正十二年六月六日在本邦英國代理大使ヨリ北樺太ニ於テ石油並
石炭ニ關スル利權ヲ有スル英國會社「セコンド、サハレン、シン
ジケート、リミテッド」及「サハレン、オイル、ファイルド、リミ
テッド」ニ於テ其ノ財産、鑛區及從來設備シタル機械類ヲ調査ス
ル爲北樺太ニ調査員ヲ派遣シ度ニ付右ニ對スル便宜供與ニ關スル
帝國政府ノ意嚮ヲ承知シ度キ旨申出タルニ付之ニ對シ帝國政府ハ
北樺太占領實施前同地ニ於テ舊露國政府ヨリ獲得シ且占領當時有
效ニ存續セル權利ヲ尊重スルコト勿論ナルモ派遣軍カ占領當時引
繼キタル同地露國鑛務署ノ記録ニ付キ調査シタル處ニ依レハ該英
國會社關係權利見當ラス且北樺太ハ現ニ帝國派遣軍ニ於テ軍政ヲ
布キ居ル關係上調査員派遣ニ先チ該會社ノ權利ノ存在ヲ證明スヘ
キ明確ナル資料並調査ヲ行ハントスル地域及調査ノ方法ニ關スル
書類ノ提示アリタキ旨回答セル處同年九月二十九日同代理大使ヨ

リ英國會社ノ權利關係ニ關スル書類ヲ送付シ來レルモ右ハ權利關係ノ一部分ニ關スルモノニシテ不充分ナリシヲ以テ大正十三年一月三十日重ネテ在本邦英國大使ニ對シ該會社ノ有スル鑛業權ノ内容ニ關シ詳細承知シ度旨照會シタル處七月四日同大使ヨリ石油特許原所有者名簿、許可番號及月日等ニ關スル書類ヲ送付スルト共ニ我方當該官憲ニ於テ可成速ニ右英國會社ノ利權地ニ於ケル事業開始ヲ許可スル様期待スル旨附言シ來レリ次テ同年八月一日英國大使ハ外務大臣ヲ訪問シ今回北京會議ニ於テ北樺太ニ於ケル利權問題解決ノ筈ナル旨新聞ニ報道セララル處日「ソ」間ニ於ケル本問題ノ解決ニ對シテハ同大使ニ於テ何等異議ヲ唱ヘムトスルモノニ非サルモ英國會社ノ有スル油田開發ノ權利ハ如何ニ取扱ハルル考ナリヤト質問シタルニ付大臣ハ其ノ所謂利權ハ帝國ノ北樺太占領前既ニ久シク殆ント事業ニ着手セラレタルモノナキモノノ如キ處スル利權カ今日ニ於テモ露國法規ニ照シ有效ナルヤ否ヤニ付テ

ハ當方ニ於テ之ヲ確ムルノ途ナシ要スルニ右權利關係ナルモノハ
元來日英兩國間ノ問題ニアラスシテ英「ソ」兩國間ニ於テ處理セ
ラルヘキモノト思考スル旨應答セラレタリ

越エテ九月二十日書翰ヲ以テ英國大使ニ對シ帝國政府ハ本件ヲ篤
ト審議シタル處目下ノ情況ニ於テ右英國會社調査員ノ北樺太內旅
行ハ忽チ帝國ノ輿論ヲ刺戟シ種々物議ノ原因トナルヲ免レスト認
メラルルニ付之ヲ許可スルニ便ナラス尤モ右會社ニ屬スル機械器
具等ニシテ北樺太ニ存在スルモノアラハ會社ヨリ其ノ品名及所在
ヲ申告次第帝國占領軍憲ニ於テ及フ限り調査スヘキ旨並舊露國鑛
業記錄ニ徵スルニ英國會社關係ノ鑛業權ハ全部千九百十八年十月
迄ノ間ニ於テ許可期限滿了セルモノナル旨申送レリ

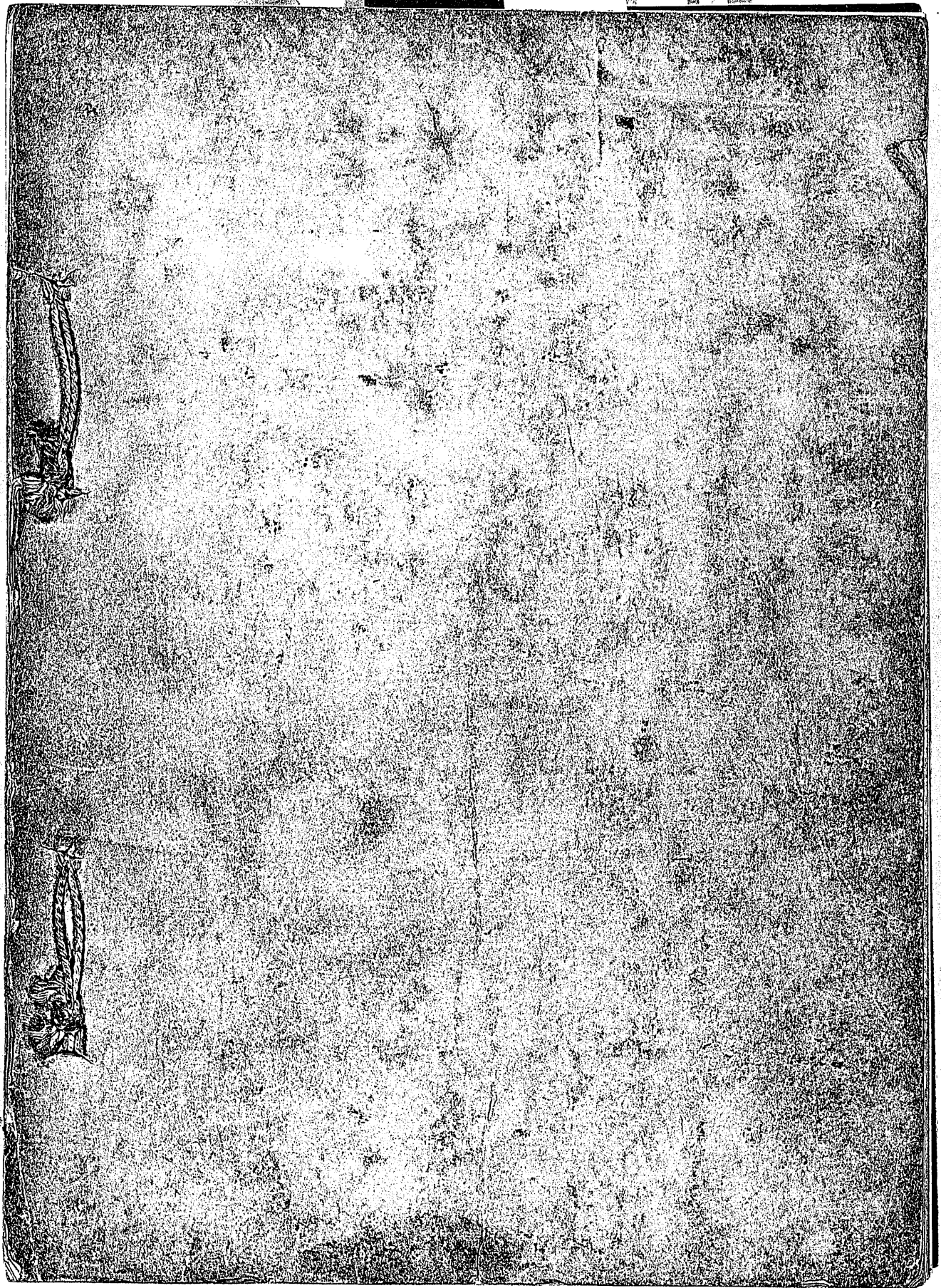
ニ其後日「ソ」基本條約締結直後在本邦英國大使ヨリ(一)同條約附屬
議定書(乙)ニ掲ケラレタル油田區域中ニハ英國臣民カ前露國政府ヨ
リ特許セラレタル借區ヲ包含シ居ルコトヲ指摘シ我方ノ注意ヲ喚

起シ來ルト同時ニ(一)「ソ」聯邦政府ノ許與スルコトアルヘキ利權
カ前露國政府ヨリ許與セラレタル利權ト牴觸スル場合ニ於テハ前
利權者ノ權利ヲ尊重スル旨ノ英國政府ノ一般の方針ヲ開示シ帝國
政府ニ於テ同一方針ヲ執ルノ意向アリヤ否ヤヲ問合セ來リタルニ
付帝國政府ハ大正十四年三月十七日附公文ヲ以テ(一)ニ關シテハ日
本官憲ノ一應調査シ得タル限り本件英國臣民ノ主張セル權利ハ夙
ニ消滅ニ歸シタルモノト認メラルルノミナラス曩ニ北京ニ於ケル右
日「ソ」條約交渉ノ際「ソ」聯邦代表者ハ所定ノ油田ニ對シ何等
權利ヲ有スル第三者ノ全然存在セサルコトヲ確言シタル旨及北「
サガレン」ノ油田ニ關シ英國臣民ノ前露國政府ヨリ許與セラレタ
ル利權カ今尙有效ニ存續スルヤ否ヤノ問題ハ畢竟其ノ利權許與ノ
條件及油田所在國ノ法令ニ依リ決セラレヘキモノナル處帝國政府
ハ自己ノ關與セサル利權許與ノ條件又ハ外國法令ノ解釋適用ニ付
徹底的審査ヲ遂クルノ地位ニ在ラス從テ右英國臣民ノ主張セル權

利ノ效力問題ハ彼我兩國政府間ニ於ケル論議ノ題目タルニ適セサルモノト思考スル旨又(二)ニ關シテハ今回ノ日「ソ」條約附屬議定書(乙)ニ依リ日本臣民ニ確保セラレタル利權ハ前記ノ事情ニ顧ミ何等第三者ノ既得權ト抵觸スルカ如キ利權ノ設定セラレタルモノナキ旨回答セリ

三 本件英國會社ノ鑛業權ナルモノカ既ニ消滅シ現存シ居ラサルコトハ前述ノ通ナルヲ以テ英國側ニ於テモ最早本問題ヲ斷念セルモノト思惟シオリタル處英國側ハ依然該鑛業權ニ未練ヲ有スルモノノ如ク昭和八年ニ至リ突如在本邦英國代理大使ヨリ八月二十一日附ヲ以テ本國政府ノ訓令ニ基ク趣ヲ以テ日本側カ如何ニシテ本件英國利權ヲ所有スルニ至リシヤ明カナラサル處關係英國會社ハ該利權ヲ讓渡シタル事實ナク又該利權ヲ合法的ニ放棄シタル事實モナキニ付右ハ悉ラク法律上有效ナル手段ヲ以テセラレサリシモノナルヘク從テ本件英國會社ハ今日ニ於テモ現ニ日本側カ作業ニ從事

シツツアル北「サガレン」利權ノ正當保有者タルモノト認メラル
ル次第ナルヲ以テ前記英國會社ノ執ルヘキ法律上ノ措置ヲ決定ス
ル爲日本側カ如何ナル權原ニ基キ該利權作業ヲ行ヒツツアルヤニ
付調査アリ度旨申越シタリ仍テ政府ハ同年九月一日附ヲ以テ本件
ニ關シテハ從來屢次開陳セル通ニシテ帝國政府乃至當該利權者タ
ル帝國臣民ト前記英國會社トノ間ニ何等問題發生ノ余地ナキ義ト
思考スル旨回答シ置キタル處其ノ後先方ヨリ何等申出ツル所ナク
シテ今日ニ及ヘリ



国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

議 38-0786 <http://www.jacar.go.jp>